

岩手県総合計画審議会

令和2年度第2回県民の幸福感に関する分析部会

日時：令和2年5月28日(木) 9:30～12:00

場所：エスポワールいわて 3階 特別ホール

次 第

1 開 会

2 議 題

(1) 分野別実感の分析について

(2) その他

3 閉 会

配付資料一覧

- 資料1 年次レポートの骨子（案）について
- 資料2 令和2年県の施策に関する県民意識調査結果
- 資料3 令和2年県の施策に関する県民意識調査（補足調査）結果
- 資料4 補足調査の対象者の選定の妥当性について

(参考)

令和2年度
「県民の幸福感に関する分析部会」
年次レポート

令和2年〇月

記載内容は、昨年度作成の年次レポートから抜粋した作成イメージです。

目次

I	本報告書の内容	1
II	令和2年度の検討事項	1
III	調査結果	
1	「県の施策に関する県民意識調査」の結果	2
1.1	調査目的及び対象等	
1.2	調査結果の概要	
2	「県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」の結果	
2.1	調査目的及び対象等	
2.2	調査結果	
IV	分析結果	
1	主観的幸福感について	
2	分野別実感について	
2.1	実感が上昇した分野	
2.2	実感が変わらなかった分野	
2.3	実感が下降した分野	
3	まとめ	
V	参考	
1	県民の幸福感に関する分析部会運営要領	
2	県民の幸福感に関する分析部会委員等名簿	
3	令和2年度における部会開催状況等	

【別冊】

「県の施策に関する県民意識調査」結果

（参考資料1） 「県の施策に関する県民意識調査」調査票

「県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」結果

（参考資料2） 「県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」調査票

I 本報告書の内容

「県民の幸福感に関する分析部会」（以下「分析部会」という。）は、県民の幸福を守り育てることを基本目標に掲げた「いわて県民計画（2019～2028）」を着実に推進していくため、令和元年6月、岩手県総合計画審議会に、「県の施策に関する県民意識調査」（以下「県民意識調査」という。）で把握した県民の幸福に関する様々な実感を分析することを目的に設置されました。

この報告書は、令和2年度における分析部会の検討結果をとりまとめたものです。

II 令和元年度の検討事項

県では、主観的幸福感や幸福に関連する分野別実感の変動状況を県民意識調査により把握するとともに、これと同時期に、継続的に特定の対象者に対して、主観的幸福感や幸福に関連する分野別実感の理由を調査する「県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」（以下「補足調査」という。）を行いました。

分析部会は、これらの調査結果をもとに、「いわて県民計画（2019～2028）」の実効性を高め、政策立案に反映させていくことを目的として、県民の幸福に関する様々な実感に係る変動要因について分析を行いました。

Ⅲ 調査結果

1 「県の施策に関する県民意識調査」の結果

1.1 調査目的及び対象等

(1) 県民意識調査の概要

- ① 調査名称 県の施策に関する県民意識調査
- ② 調査対象 県内に居住する18歳以上の男女
(平成28年までは20歳以上、平成29年からは18歳以上)
- ③ 対象者数 5,000人
- ④ 抽出方法 選挙人名簿からの層化二段無作為抽出
- ⑤ 調査方法 設問票によるアンケート調査(郵送法)
- ⑥ 調査時期 毎年1～2月
- ⑦ 回収率 66.5%(3,327/5,000人)

(2) 設問項目の概要

① 主観的幸福感

ア 設問

「あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか」

イ 選択肢

「幸福だと感じている」、「やや幸福だと感じている」、「どちらともいえない」、「あまり幸福だと感じていない」、「幸福だと感じていない」、「わからない」

② 幸福に関連する分野の実感

ア 設問

政策分野	分野別実感	設問
Ⅰ健康・余暇	心身の健康	こころやからだ健康だと感じますか
	余暇の充実	余暇が充実していると感じますか
Ⅱ家族・子育て	家族関係	家族と良い関係が取れていると感じますか
	子育て	子育てがしやすいと感じますか
Ⅲ教育	子どもの教育	子どものためになる教育が行われていると感じますか
Ⅳ居住環境・コミュニティ	住まいの快適さ	住まいに快適さを感じますか
	地域社会とのつながり	地域社会とのつながりを感じますか
Ⅴ安全	地域の安全	お住まいの地域が安全だと感じますか
Ⅵ仕事・収入	仕事のやりがい	仕事にやりがいを感じますか
	必要な収入や所得	必要な収入や所得が得られていると感じますか
Ⅶ歴史・文化	歴史・文化への誇り	地域の歴史や文化に誇りを感じますか
Ⅷ自然環境	自然のゆたかさ	自然に恵まれていると感じますか

※ 県民意識調査では、主観的幸福感に関連する8政策分野に係る12の実感を把握しており、これら分野を下支えする共通の土台として設定した「Ⅸ社会基盤」「Ⅹ参画」の2分野の実感については把握していない。

イ 選択肢

「感じる」、「やや感じる」、「どちらともいえない」、「あまり感じない」、「感じない」、「わからない」

1.2 調査結果の概要

(資料2における調査結果を転記するイメージ)

2 「県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」の結果

2.1 調査目的及び対象等

① 調査目的

県民の幸福に着目して策定した「いわて県民計画（2019～2028）」を着実に推進していくため、「県の施策に関する県民意識調査」で把握した分野別実感の変動要因を把握し、政策評価に反映していくことを目的に、調査対象者を固定し複数年継続して調査を行うパネル調査を実施するもの。

② 調査対象

岩手県内に居住する18歳以上の男女

③ 調査対象者数

県が選定した600人（各広域振興圏150人）

（調査対象者）

（人）

地域	性別	18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
県央	男	2	3	13	12	14	18	13	75
	女	3	8	14	16	14	10	10	75
	計	5	11	27	28	28	28	23	150
県南	男	2	7	12	11	10	18	16	76
	女	1	8	15	17	13	10	10	74
	計	3	15	27	28	23	28	26	150
沿岸	男	1	12	14	11	15	14	11	78
	女	0	6	8	16	15	13	14	72
	計	1	18	22	27	30	27	25	150
県北	男	1	2	11	6	17	21	19	77
	女	1	6	11	16	17	13	9	73
	計	2	8	22	22	34	34	28	150
計	男	6	24	50	40	56	71	59	306
	女	5	28	48	65	59	46	43	294
	計	11 (1.8%)	52 (8.7%)	98 (16.3%)	105 (17.5%)	115 (19.2%)	117 (19.5%)	102 (17.0%)	600 (100%)

※年齢は平成31年1月時点

④ 調査の方法

設問票によるアンケート調査（郵送法）

⑤ 調査時期

毎年1～2月（県民意識調査の実施と同時期）

2.2 調査結果の概要

（資料3を転記するイメージ）

IV 分析結果

県民意識調査で得られた主観的幸福感と分野別実感を、以下の視点、方法で整理しました。

【県民意識調査の分析方針】

1 分析の視点

(1) 令和2年調査結果の属性分析

県民意識の属性別での特徴を把握するため、主観的幸福感と分野別実感の属性差の有無を分析

(2) 補足調査結果の変動要因分析

県民意識の変化の状況を把握するため、平成31年県民意識調査回答時と実感が変動した対象者の変動理由を分析

2 分析データ

以下のとおり、当分析部会の分析データと公表データは処理方法が異なるため、既に公表されている県民意識調査結果と数値が異なる場合があります。

(1) 単純集計を採用

別途公表している県民意識調査結果（以下「公表データ」という。）は、回答者数の地域差を考慮し、各回答に居住人口に応じた係数を乗じて集計（以下「母集団拡大集計」という。）していますが、分析を適切に行うため、母集団拡大集計は行わず、単純集計結果を用いました。

(2) 「わからない」、「未回答」を除外して集計

公表データは、「わからない」、「未回答」（以下「未回答等」という。）を含めて集計していますが、調査年によって未回答等の回答割合が大きく変動している設問があることから、適切な時系列分析のため、未回答等を除外して集計しました。

(3) 回答結果に1点から5点を配点して集計

公表データは、「感じる」と「やや感じる」の回答者を足し合わせた割合を使用していますが、5段階評価の回答結果を適切に分析に反映させるため、回答結果に以下のとおり配点した結果の平均値を使用しました。

（配点）

・感じている（幸福である）	5点	・あまり感じない（あまり幸福ではない）	2点
・やや感じている（やや幸福）	4点	・感じない（幸福ではない）	1点
・どちらでもない	3点		

3 分析方法

(1) 令和2年県民意識調査結果の属性差の有無は一元配置分散分析で検証

男女差の有無など各属性（年齢階層別等）の区分（20歳代、30歳代、40歳代等）間の差の有無は一元配置分散分析で検証し、5%水準で有意な差があると判定された属性を区分間で差があると判断しました。当報告書では、その中で最も値が高い区分と低い区分を記載しています。

なお、「18～19歳」、「60歳未満の無職」はサンプル数が小さいため、グラフには掲載していませんが、分析対象からは除外しています。

(2) 平成31年から令和2年調査結果の時系列変化の有無はt検定で検証

時系列変化の有無は、基準年（H31年調査）と当該年（令和2年調査）の2時点間をt検定で検証し、5%水準で有意な差があると判定されたものを、期間で差があると判断しました。

1 主観的幸福感について

(1) 主観的幸福感の令和2年調査の主な分析結果

① 県全体の幸福感は、5点満点中3.43点

平成31年調査結果によると、「幸福だと感じる」と「やや幸福と感じる」と回答した人の割合は、県全体で52.3%となりました。

「幸福だと感じる」から「幸福だと感じていない」の5段階の選択肢に応じて5点から1点を配点したところ、県全体の平均値は3.43点となりました。

② 性別では「女性」が、年齢階層別では「70歳以上」が、職業別では「専業主婦(夫)」が高い

平成31年調査結果によると、性別では、男性に比べ女性の主観的幸福感が高くなりました。

年齢階層別では、毎年変化がありますが、平成31年調査結果では、50歳代が低く、70歳以上が高くなりました。

職業別でも、毎年変化がありますが、平成31年調査結果では、無職が低く、専業主婦(夫)が高くなりました。

③ 世帯構成別では「夫婦のみ世帯」が、子の人数別では、「子どもが2人」が高い

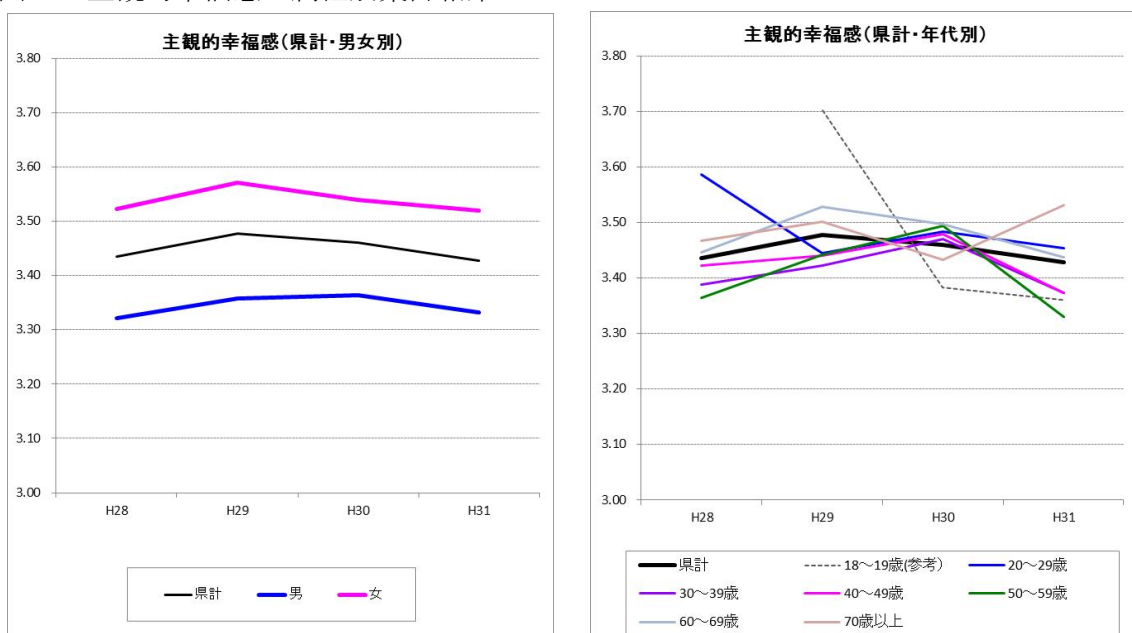
平成31年調査結果によると、世帯構成別では、「ひとり暮らし」に比べ「夫婦のみ世帯」の主観的幸福感が高くなりました。

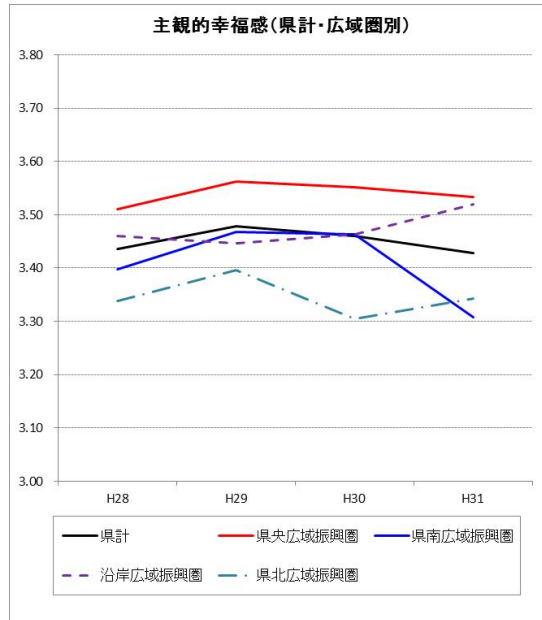
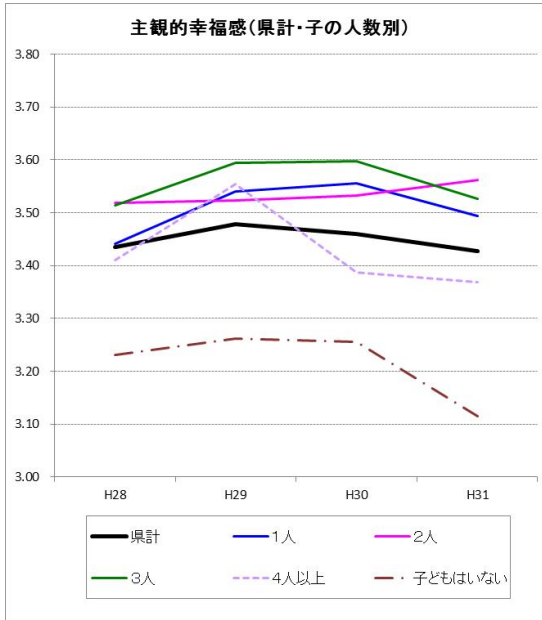
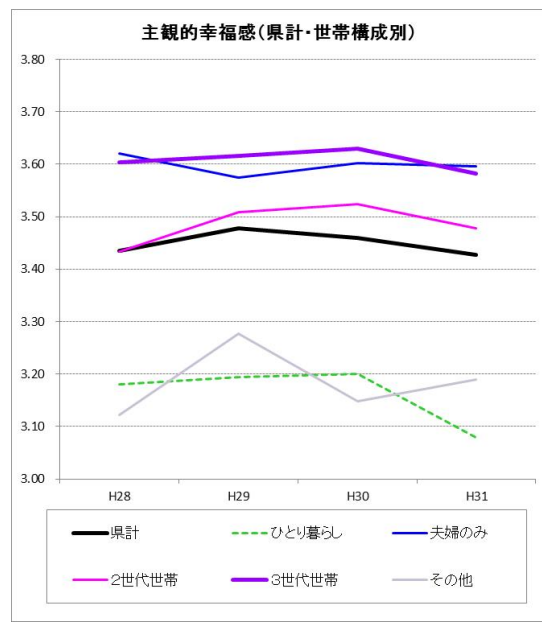
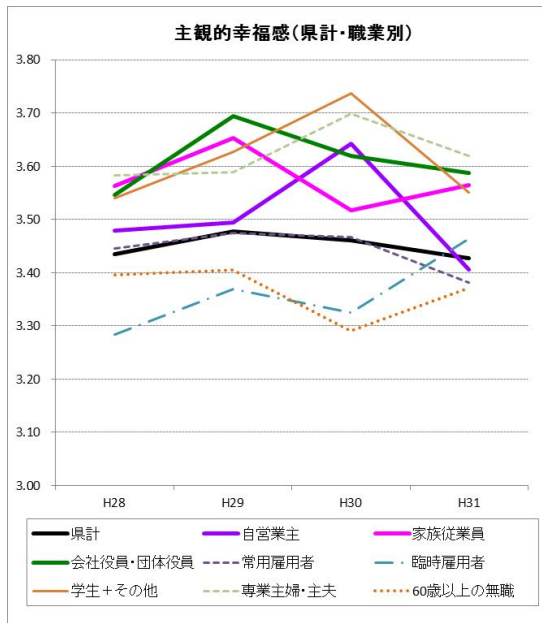
また、子の人数別では、「子どもがいない」に比べ、「子どもが2人」の主観的幸福感が高くなりました。

④ 県南、県北広域振興圏に比べ、県央、沿岸広域振興圏の主観的幸福感が高い

広域振興圏別では、毎年若干の変化がありますが、平成31年調査結果では、県南、県北広域振興圏が低く、県央、沿岸広域振興圏の主観的幸福感が高くなりました。

図1 主観的幸福感の属性別集計結果





2 分野別実感について

県民意識調査における分野別実感について、当該計画実施直前の平成31年調査を基準年とし、当該年（令和2年調査）の2時点間をt検定で検証し、5%水準で有意な差があると判定されたものを、期間で差があると判断しました。

その結果、下表のとおりとなり、上昇が1分野、横ばいが5分野、低下が6分野となりました。

この結果を踏まえ、当部会では、県民意識調査から得られた結果等を踏まえ、分野別実感の変動について、以下のとおり分析しました。

「県民意識調査」分野別実感の時系列分析結果

政策分野	分野別実感	平均値の推移	
		H31 (基準年)	R2 (当該年度)
Ⅰ健康・余暇	(1) 心身の健康	3.00	3.15
		- (0.01)	↑ (0.15)
	(2) 余暇の充実	3.05	2.93
		↑ (0.07)	↓ (Δ0.12)
Ⅱ家族・子育て	(3) 家族関係	3.84	3.86
		- (Δ0.04)	- (0.02)
	(4) 子育て	3.08	3.07
		↑ (0.06)	- (Δ0.01)
Ⅲ教育	(5) 子どもの教育	3.10	3.09
		- (Δ0.03)	- (Δ0.01)
Ⅳ居住環境・コミュニティ	(6) 住まいの快適さ	3.34	3.29
		- (0.04)	- (Δ0.05)
	(7) 地域社会とのつながり	3.35	3.16
		- (0.05)	↓ (Δ0.19)
Ⅴ安全	(8) 地域の安全	3.82	3.66
		- (0.03)	↓ (Δ0.16)
Ⅵ仕事・収入	(9) 仕事のやりがい	3.54	3.38
		- (0.03)	↓ (Δ0.16)
	(10) 必要な収入や所得	2.65	2.56
		↑ (0.20)	↓ (Δ0.09)
Ⅶ歴史・文化	(11) 歴史・文化への誇り	3.28	3.25
		↓ (Δ0.07)	- (Δ0.03)
Ⅷ自然環境	(12) 自然のゆたかさ	4.21	4.16
		↓ (Δ0.06)	↓ (Δ0.05)

(注) ① () は前年との差。

② t検定の結果、5%水準で有意な変化が確認できたものは、網掛けと矢印で表記。

2.1 実感が上昇した分野

(1) I 健康・余暇分野「心身の健康」の実感

① 平成31年調査結果によると、主観的幸福感に関連する「心身の健康」の実感は、年齢階層別では「70歳以上」が、職業別では「学生等」が、世帯構成別では「夫婦世帯」が、子の人数別では「子どもが2人」が、居住年数別では「10～20年」が、広域振興圏別では「県央広域振興圏」がそれぞれ高い

- ・ H31年調査結果によると、「こころとからだの健康」の実感は5点中3.00となり、12の設問中2番目に低い値となりました。
- ・ 年齢階層別では、30歳代が低く、70歳以上が高くなりました。
- ・ 職業別では、無職が低く、学生等が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、その他（寮、グループホームなど）が低く、夫婦世帯が高くなりました。
- ・ 子の人数別では、子どもがいない人が低く、子どもが2人いる人が高くなりました。
- ・ 居住年数別では、居住期間が20年以上の人が低く、居住期間が10～20年の人が高くなりました。
- ・ 広域振興圏別では、県南広域振興圏が低く、県央広域振興圏が高くなりました。

② 平成31年から令和2年までの調査結果によると、分野別実感は上昇

- ・ 当該分野で「感じる」、「やや感じる」と回答している人の主な理由は以下のとおりでした。
 - ・
 - ・
 - ・
- ・ 補足調査結果から、実感が上昇した人の主な理由は、以下のとおりでした。
 - ・
 - ・
 - ・

2.2 実感が横ばいの分野

(3) II 家族・子育て分野「家族関係」の実感

① 平成31年調査結果によると、主観的幸福感に関連する「家族関係」の実感は、年齢階層別では「20歳代」が、世帯構成別では「夫婦世帯」が、子の人数別では「子どもが2人」が、広域振興圏別では「沿岸広域振興圏」がそれぞれ高い

- ・ H31年調査結果によると、「家族との良い関係」の実感は5点中3.84となり、12の設問中2番目に高い値となりました。
- ・ 年齢階層別では、50歳代が低く、20歳代が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、一人暮らしが低く、夫婦世帯が高くなりました。
- ・ 子の人数別では、子どもが4人以上の人が低く、子どもが2人いる人が高くなりました。
- ・ 広域振興圏別では、県南広域振興圏、県北広域振興圏が低く、沿岸広域振興圏が高くなりました。

② 平成31年から令和2年までの調査結果によると、分野別実感は横ばい

(4) II 家族・子育て分野「子育て」の実感

- ① 平成 31 年調査結果によると、主観的幸福感に関連する「子育て」の実感は、年齢階層別では「70 歳以上」が、世帯構成別では「3 世代同居世帯」が、子の人数別では「子どもが 3 人」が、広域振興圏別では「県央広域振興圏」がそれぞれ高い
- ・ H31 年調査結果によると、「子育てのしやすさ」の実感は 5 点中 3.08 となり、12 の設問中 9 番目に高い値となりました。
 - ・ 年齢階層別では、20 歳代が低く、70 歳以上が高くなりました。
 - ・ 世帯構成別では、一人暮らしが低く、3 世代同居世帯が高くなりました。
 - ・ 子の人数別では、子どもがいない人が低く、子どもが 3 人いる人が高くなりました。
 - ・ 広域振興圏別では、県南広域振興圏が低く、県央広域振興圏が高くなりました。
- ② 平成 31 年から令和 2 年までの調査結果によると、分野別実感は横ばい

(5) Ⅲ教育分野「子どもの教育」の実感

- ① 平成 31 年調査結果によると、主観的幸福感に関連する「子どもの教育」の実感は、年齢階層別では「70 歳以上」が、世帯構成別では「3 世代同居世帯」が、子の人数別では「子どもが 3 人」が、居住年数別では「10~20 年」がそれぞれ高い
- ・ H31 年調査結果によると、「子どもの教育」の実感は 5 点中 3.10 となり、12 の設問中 8 番目に高い値となりました。
 - ・ 年齢階層別では、20 歳代が低く、70 歳以上が高くなりました。
 - ・ 世帯構成別では、一人暮らしが低く、3 世代同居世帯が高くなりました。
 - ・ 子の人数別では、子どもがいない人が低く、子どもが 3 人いる人が高くなりました。
 - ・ 居住年数別では、居住期間が 10 年未満の人が低く、居住期間が 10~20 年の人が高くなりました。
- ② 平成 31 年から令和 2 年までの調査結果によると、分野別実感は横ばい

(6) Ⅳ居住環境・コミュニティ分野「住まいの快適さ」の実感

- ① H31 年調査結果によると、主観的幸福感に関連する「住まいの快適さ」の実感は、年齢階層別では「70 歳以上」が、職業別では「学生等」が、世帯構成別では「夫婦世帯」が、子の人数別では「子どもが 3 人」が、広域振興圏別では「県央広域振興圏」がそれぞれ高い
- ・ H31 年調査結果によると、「住まいの快適さ」の実感は 5 点中 3.34 となり、12 の設問中 6 番目に高い値となりました。
 - ・ 年齢階層別では、30 歳代が低く、70 歳以上が高くなりました。
 - ・ 職業別では、臨時雇用者が低く、学生等が高くなりました。
 - ・ 世帯構成別では、一人暮らしが低く、夫婦世帯が高くなりました。
 - ・ 子の人数別では、子どもがいない人が低く、子どもが 3 人いる人が高くなりました。
 - ・ 広域振興圏別では、県北広域振興圏が低く、県央広域振興圏が高くなりました。
- ② 平成 31 年から令和 2 年までの調査結果によると、分野別実感は横ばい

(11) Ⅶ歴史・文化分野「歴史・文化への誇り」の実感

- ① 平成 31 年調査結果によると、主観的幸福感に関連する「歴史・文化への誇り」の実感は、性別では「女性」が、年齢階層別では「70 歳以上」が、職業別では「学生等」

が、子の人数別では「子どもが2人」が、居住年数別では「20年以上」がそれぞれ高い

- ・ H31年調査結果によると、「歴史・文化への誇り」の実感は5点中3.28となり、12の設問中7番目に高い値となりました。
- ・ 性別では、男性が低く、女性が高くなりました。
- ・ 年齢階層別では、30歳代が低く、70歳以上が高くなりました。
- ・ 職業別では、常用雇用者が低く、学生等が高くなりました。
- ・ 子の人数別では、子どもがいない人が低く、子どもが2人いる人が高くなりました。
- ・ 居住年数別では、居住期間が10年未満の人が低く、居住期間が20年以上の人が高くなりました。

② 平成31年から令和2年までの調査結果によると、分野別実感は横ばい

2.3 実感が低下した分野

(2) I健康・余暇分野「余暇の充実」の実感

① 平成31年調査結果によると、主観的幸福感に関連する「余暇の充実」の実感は、年齢階層別では「70歳以上」が、職業別では「学生等」が、世帯構成別では「夫婦世帯」が、子の人数別では「子どもが2人」が、広域振興圏別では「県央広域振興圏」がそれぞれ高い

- ・ H31年調査結果によると、「余暇の充実」の実感は5点中3.05となり、12の設問中10番目に高い値となりました。
- ・ 年齢階層別では、30歳代が低く、70歳以上が高くなりました。
- ・ 職業別では、会社・団体役員が低く、無職が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、その他（寮、グループホームなど）が低く、夫婦世帯が高くなりました。
- ・ 子の人数別では、子どもがいない人が低く、子どもが2人いる人が高くなりました。
- ・ 広域振興圏別では、県南広域振興圏が低く、県央広域振興圏が高くなりました。

② 平成31年から令和2年までの調査結果によると、分野別実感は低下

- ・ 当該分野で「あまり感じない」、「感じない」と回答している人の主な理由は以下のとおりでした。
 - ・
 - ・
 - ・
- ・ 補足調査結果から、実感が低下した人の主な理由は、以下のとおりでした。
 - ・
 - ・
 - ・

(7) IV居住環境・コミュニティ分野「地域社会とのつながり」の実感

① 平成31年調査結果によると、主観的幸福感に関連する「地域社会とのつながり」の実感は、年齢階層別では「70歳以上」が、職業別では「家族従業員」が、世帯構成別では「3世代同居世帯」が、子の人数別では「子どもが3人」が、居住年数別では「20年以上」が、広域振興圏別では「沿岸広域振興圏」がそれぞれ高い

- ・ H31年調査結果によると、「地域社会とのつながり」の実感は5点中3.35となり、

12 の設問中 5 番目に高い値となりました。

- ・ 年齢階層別では、20 歳代が低く、70 歳以上が高くなりました。
- ・ 職業別では、常用雇用者が低く、家族従業員が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、一人暮らしが低く、3 世代同居世帯が高くなりました。
- ・ 子の人数別では、子どもがいない人が低く、子どもが 3 人いる人が高くなりました。
- ・ 居住年数別では、居住期間が 10 年未満の人が低く、居住期間が 20 年以上の人が高くなりました。
- ・ 広域振興圏別では、県央広域振興圏が低く、沿岸広域振興圏が高くなりました。

② 平成 31 年から令和 2 年までの調査結果によると、分野別実感は低下

- ・ 当該分野で「あまり感じない」、「感じない」と回答している人の主な理由は以下のとおりでした。
 - ・
 - ・
 - ・
- ・ 補足調査結果から、実感が低下した人の主な理由は、以下のとおりでした。
 - ・
 - ・
 - ・

(8) V 安全分野「地域の安全」の実感

① 平成 31 年調査結果によると、主観的幸福感に関連する「地域の安全」の実感は、年齢階層別では「70 歳以上」が、職業別では「家族従業員」がそれぞれ高い

- ・ H31 年調査結果によると、「地域の安全」の実感は 5 点中 3.82 となり、12 の設問中 3 番目に高い値となりました。
- ・ 年齢階層別では、30 歳代が低く、70 歳以上が高くなりました。
- ・ 職業別では、臨時雇用者が低く、家族従業員が高くなりました。

② 平成 31 年から令和 2 年までの調査結果によると、分野別実感は低下

- ・ 当該分野で「あまり感じない」、「感じない」と回答している人の主な理由は以下のとおりでした。
 - ・
 - ・
 - ・
- ・ 補足調査結果から、実感が低下した人の主な理由は、以下のとおりでした。
 - ・
 - ・
 - ・

(9) VI 仕事・収入分野「仕事のやりがい」の実感

① 平成 31 年調査結果によると、主観的幸福感に関連する「仕事のやりがい」の実感は、年齢階層別では「70 歳以上」が、職業別では「自営業主」が、子の人数別では「子どもが 3 人」がそれぞれ高い

- ・ H31 年調査結果によると、「仕事のやりがい」の実感は 5 点中 3.54 となり、12 の設問中 4 番目に高い値となりました。

- ・ 年齢階層別では、30歳代が低く、70歳以上が高くなりました。
- ・ 職業別では、専業主婦（夫）が低く、自営業主が高くなりました。
- ・ 子の人数別では、子どもがいない人が低く、子どもが3人いる人が高くなりました。

② 平成31年から令和2年までの調査結果によると、分野別実感は低下

- ・ 当該分野で「あまり感じない」、「感じない」と回答している人の主な理由は以下のとおりでした。

・
・
・

- ・ 補足調査結果から、実感が低下した人の主な理由は、以下のとおりでした。

・
・
・

(10) VI仕事・収入分野「必要な収入や所得」の実感

① 平成31年調査結果によると、主観的幸福感に関連する「必要な収入や所得」の実感は、職業別では「会社等役員」が、世帯構成別では「夫婦世帯」が、子の人数別では「子どもが2人」が、広域振興圏別では「県央広域振興圏」がそれぞれ高い

- ・ H31年調査結果によると、「必要な収入や所得」の実感は5点中2.65となり、12の設問中最も低い値となりました。
- ・ 職業別では、無職が低く、会社・団体役員が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、その他（寮、グループホームなど）が低く、夫婦世帯が高くなりました。
- ・ 子の人数別では、子どもが4人以上いる人が低く、子どもが2人いる人が高くなりました。
- ・ 広域振興圏別では、県南広域振興圏が低く、県央広域振興圏が高くなりました。

② 平成31年から令和2年までの調査結果によると、分野別実感は低下

- ・ 当該分野で「あまり感じない」、「感じない」と回答している人の主な理由は以下のとおりでした。

・
・
・

- ・ 補足調査結果から、実感が低下した人の主な理由は、以下のとおりでした。

・
・
・

(12) VIII自然環境分野「自然のゆたかさ」の実感

① 平成31年調査結果によると、主観的幸福感に関連する「自然のゆたかさ」の実感は、年齢階層別では「40歳代」が、職業別では「学生等」が、世帯構成別では「3世代同居世帯」が、広域振興圏別では「県北広域振興圏」がそれぞれ高い

- ・ H31年調査結果によると、「自然のゆたかさ」の実感は5点中4.21となり、12の設問中最も高い値となりました。

- ・ 年齢階層別では、60歳代、70歳以上が低く、40歳代が高くなりました。
- ・ 職業別では、60歳以上の無職が低く、学生等が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、その他（寮、グループホームなど）が低く、3世代同居世帯が高くなりました。
- ・ 広域振興圏別では、県南広域振興圏が低く、県北広域振興圏が高くなりました。

② 平成31年から令和2年までの調査結果によると、分野別実感は低下

- ・ 当該分野で「あまり感じない」、「感じない」と回答している人の主な理由は以下のとおりでした。
 - ・
 - ・
 - ・
- ・ 補足調査結果から、実感が低下した人の主な理由は、以下のとおりでした。
 - ・
 - ・
 - ・

IV 参考

1 県民の幸福感に関する分析部会運営要領

(設置)

第1条 岩手県総合計画審議会条例（昭和54年岩手県条例第29号）第7条の規定に基づき、岩手県総合計画審議会に県民の幸福感に関する分析部会（以下「部会」という。）を置く。

(所掌)

第2条 部会の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) 「県の施策に関する県民意識調査」等で把握した、県民の幸福に対する実感の分析に関すること。
- (2) その他いわて県民計画の推進に当たって必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 部会は、岩手県総合計画審議会委員及び外部委員をもって組織する。

- 2 外部委員は、当該部会の所掌事項に関して十分な知識又は経験を有する者のうちから、知事が任命する。

(部会長及び副部会長)

第4条 部会に、部会長及び副部会長を各1名置く。

- 2 部会長は、委員の互選によって定める。
- 3 副部会長は、委員のうちから部会長が指名する。
- 4 部会長は、会務を総理し、会議の議長となる。
- 5 副部会長は部会長を補佐し、部会長に事故があるとき又は部会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(オブザーバー)

第5条 部会にオブザーバーを置くことができる。

- 2 オブザーバーは、知事が任命する。
- 3 オブザーバーは、必要に応じて会議に出席し、意見を述べることができる。

(会議)

第6条 部会は、知事が招集する。

- 2 部会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 部会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取)

第7条 部会は、必要に応じて専門的知識を有する者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 部会の庶務は、政策企画部政策企画課において処理する。

(補則)

第9条 この要領に定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項は、部会長が定める。

附 則

この要領は、令和元年6月6日から施行する。

附 則

この要領は、令和2年4月1日から施行する。

2 県民の幸福感に関する分析部会委員等名簿

氏名	現所属等	備考
吉野 英岐	岩手県立大学総合政策学部 教授	部会長
若菜 千穂	特定非営利活動法人いわて地域づくり支援センター 常務理事	副部会長
竹村 祥子	浦和大学社会学部 教授	
谷藤 邦基	株式会社イーアールアイ 取締役	
ティーン・キャン・ヘーン	岩手県立大学総合政策学部 教授	
山田 佳奈	岩手県立大学総合政策学部 准教授	
広井 良典	京都大学こころの未来研究センター副センター長	オブザーバー

3 令和元年度における部会開催状況等

月日	検討内容等
5月21日(木)	第1回部会開催 (1) 部会長及び副部会長の選出について (2) 意見の聴取について (3) 県民の幸福感に関する分析部会について (4) 県民の幸福感に関する分析方針(案)について (5) 分野別実感の分析について
5月28日(木)	第2回部会開催 (1) 分野別実感の分析について
6月19日(金)	第3回部会開催 (1) 分野別実感の分析について (2) 令和2年度「県民の幸福感に関する分析部会」年次レポート(素案)について
7月31日(金)	第4回部会開催 (1) 分野別実感の分析について (2) 令和2年度「県民の幸福感に関する分析部会」年次レポート(素案)について
10月 日()	第5回部会開催 (1) 令和2年度「県民の幸福感に関する分析部会」年次レポート(案)について (2) 令和3年県民意識調査(補足調査)について
11月16日(月)	第94回総合計画審議会で検討結果を報告

令和元年度「県民の幸福感に関する分析部会」年次レポート

発行 令和2年11月

発行者 岩手県総合計画審議会 県民の幸福感に関する分析部会

事務局 岩手県政策企画部政策企画課

TEL 019-629-5181 FAX 019-629-6229

年次レポートの骨子（案）について

今年度の年次レポートの作成に当たっては、「いわて県民計画（2019～2028）」の計画初年度を踏まえた内容となることから、令和2年県民意識調査結果及び補足調査を記載した上で、主観的幸福感及び各分野について分析について記載することとし、主な構成は以下のとおり。

なお、記載内容については、昨年度の年次レポートの内容に加え、新たに補足調査で得られた情報を記載することとする。

○骨子案

1 本報告書の内容

- ・ 報告書の位置付けを記載

2 令和2年度の検討事項

- ・ 今年度の検討事項を記載

3 県民意識調査結果の概要

- 3.1 県民意識調査結果（速報レベルを想定。今回資料2ベース）
- 3.2 県民意識調査（補足調査）結果（今回資料3ベース）

4 分析結果

- 4.1 主観的幸福感について（幸福感の推移、属性ごとの推移等をグラフ化）
- 4.2 分野別実感について（上昇・横ばい・低下の順に記載）
 - ・ 記載内容は、概ね①県民意識調査結果の経年変化グラフ、属性結果、②補足調査結果（意見）
 - ・ 特記すべき社会経済情勢があれば記載
 - ・ 実感の変動の理由

5 まとめ（政策評価レポート作成の根拠資料としての活用を想定）

- ・ 4 分析結果の内容を整理
 - ①幸福実感全般に触れる。
 - ②上昇した分野のまとめ
（各区分の状況（トレンド、区分となった主な理由等）について記載。以下同じ。）
 - ③横ばいの分野のまとめ
 - ④下降した分野のまとめ

参考資料

- ・ 県民意識調査結果一覧表（参考に設問を添付）
- ・ 補足調査結果一覧表（参考に設問を添付）
- ・ 部会運営要領
- ・ 部会委員名簿
- ・ 部会開催履歴

令和2年県の施策に関する県民意識調査結果(速報)

1 調査の目的

「いわて県民計画(2019～2028)」に基づいて実施する県の施策について、県民がどの程度の重要性を感じ、現在の状況にどの程度満足しているか等を把握し、今後、県が重点的に取り組むべき施策の方向性等を明らかにすることを目的とする。

2 調査の概要

- (1) 調査対象 県内に居住する18歳以上の男女
 (2) 調査対象者数 5,000人
 (3) 抽出方法 選挙人名簿からの層化二段無作為抽出
 (4) 調査方法 設問票によるアンケート調査(郵送法)
 (5) 調査時期 令和2年1～2月(毎年調査)
 (6) 調査項目
 ア 生活全般の満足度
 イ 「いわて県民計画(2019～2028)」の10の政策分野に関連する57項目に係る重要度、満足度について
 ウ 幸福度について
- (7) 有効回収率 67.7%(3,387人/5,000人)
 (8) 回答者の属性

【男女別】	回答者数	割合
男性	1,494	(44.1)
女性	1,875	(55.4)
その他	8	(0.2)
不明	10	(0.3)

【居住地別】	回答者数	割合
県央広域振興圏	966	(28.5)
県南広域振興圏	993	(29.3)
沿岸広域振興圏	837	(24.7)
県北広域振興圏	591	(17.4)

【年齢別】	回答者数	割合
18～19歳	43	(1.3)
20～29歳	160	(4.7)
30～39歳	273	(8.1)
40～49歳	432	(12.8)
50～59歳	598	(17.7)
60～69歳	805	(23.8)
70歳以上	1,028	(30.4)
不明	48	(1.4)

【職業別】	回答者数	割合
自営業主	291	(8.6)
家族従業者	136	(4.0)
会社役員・団体役員	198	(5.8)
常用雇用者	885	(26.1)
臨時雇用者	432	(12.8)
学生	56	(1.7)
専業主婦(主夫)	416	(12.3)
無職	751	(22.2)
その他	139	(4.1)
不明	83	(2.5)

()内は%

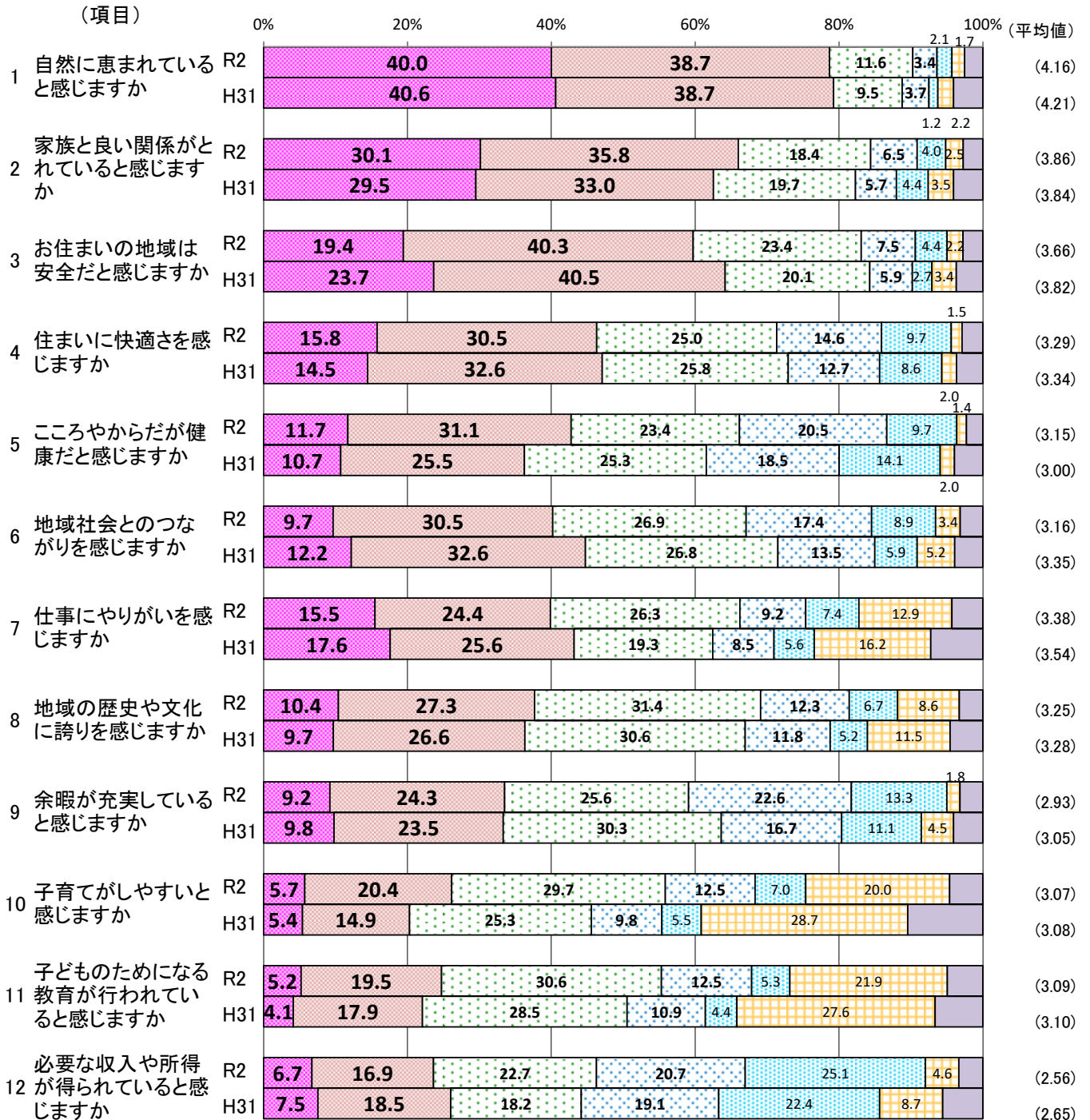
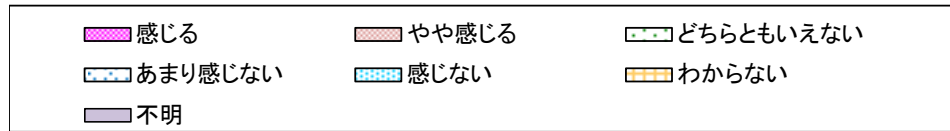
(注) 小数点第1位未満四捨五入の関係から、内訳の計が100%にならない場合があります。

問3 県では、「お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて」の実現に向けてさまざまな取組を推進しています。希望郷いわての実現のため、あなたの「幸福」に関する行動や考え方等についてお伺いします。

問3-1 現在のあなたご自身のことについて、おたずねします。

分野別実感12項目の今回及び前回調査の回答割合は下表のとおり。(単純集計結果)

R2調査の感じる
 (「感じる」+「やや感じる」の割合の高い順)



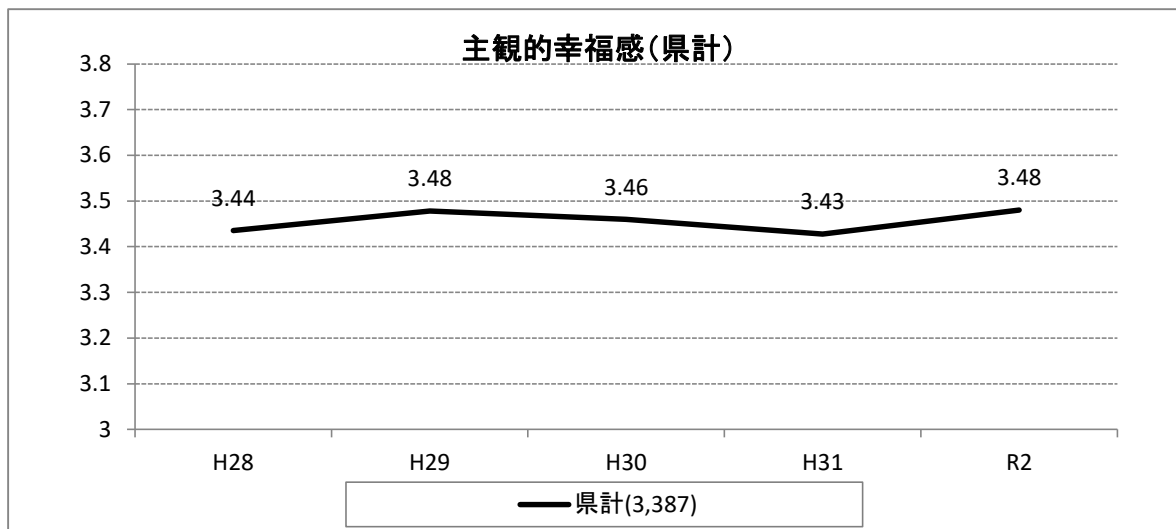
「平均点の算出方法について」

「感じる」を5点、「やや感じる」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり感じない」を2点、「感じない」を1点とし、それぞれの選択者数を乗じた合計点を、全体の回答者数(「わからない」、「不明(無回答)」を除く。)で除し、数値化したもの。

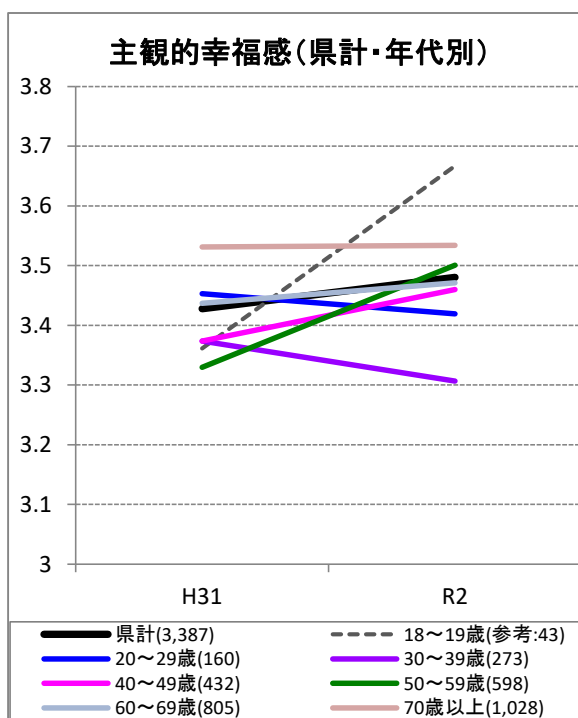
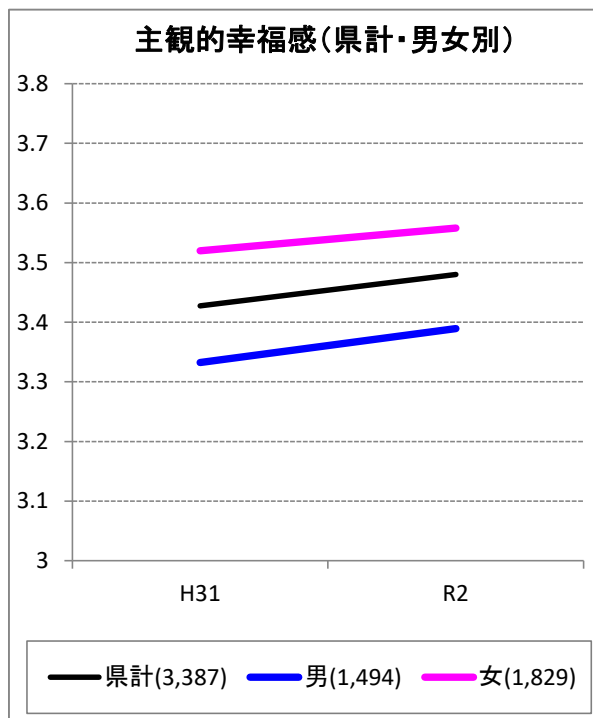
問3-2 あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。

- 県全体の主観的幸福感の平均値は、5点満点中3.48点となった。(昨年調査:3.43点)
- 県全体の平均値について、平成31年と令和2年を比較したところ、有意な変化を確認できないことから横ばいに推移していると考えられる。(平成28年から平成31年までも横ばい推移。)

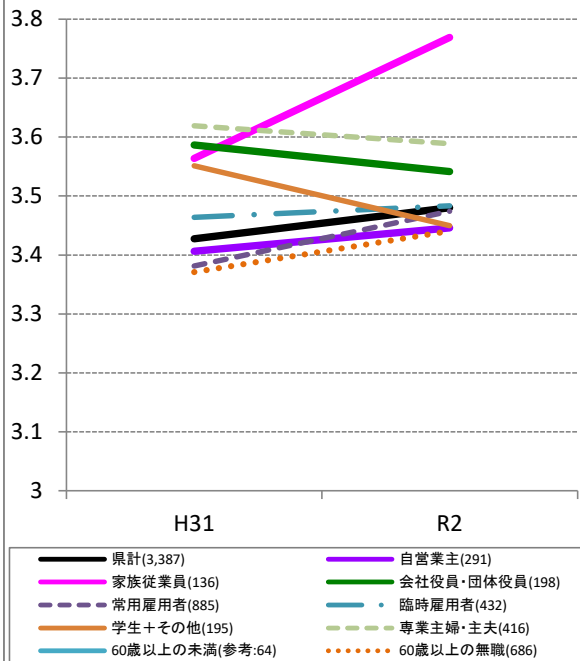
(県計の平均値)



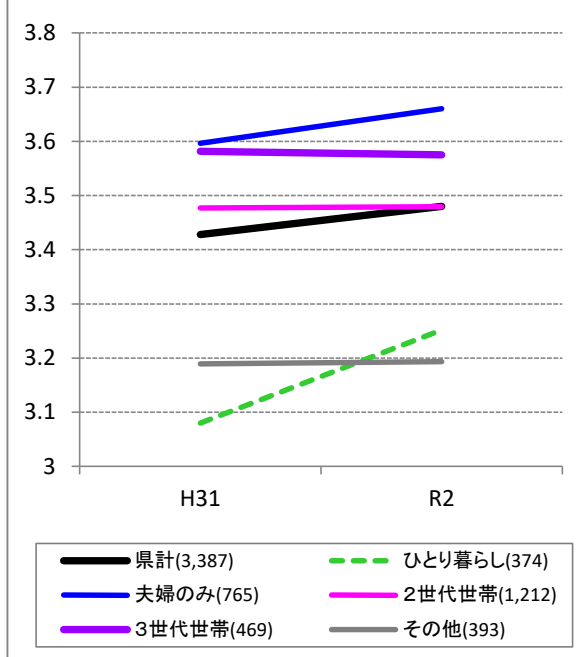
(属性別の平均値)



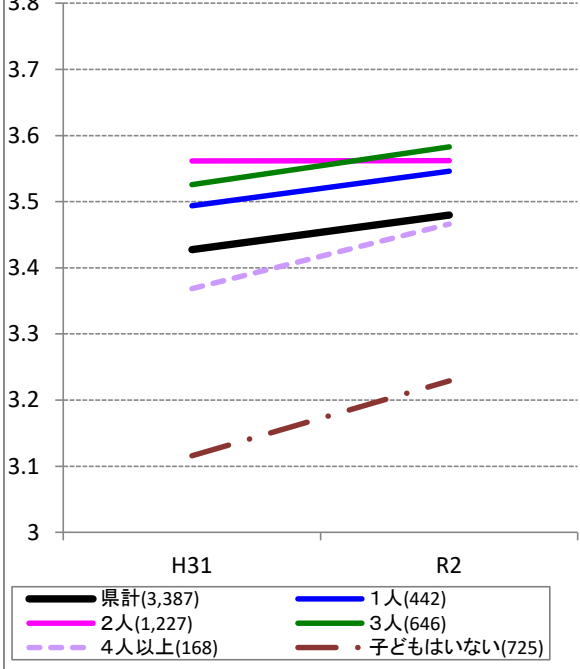
主観的幸福感(県計・職業別)



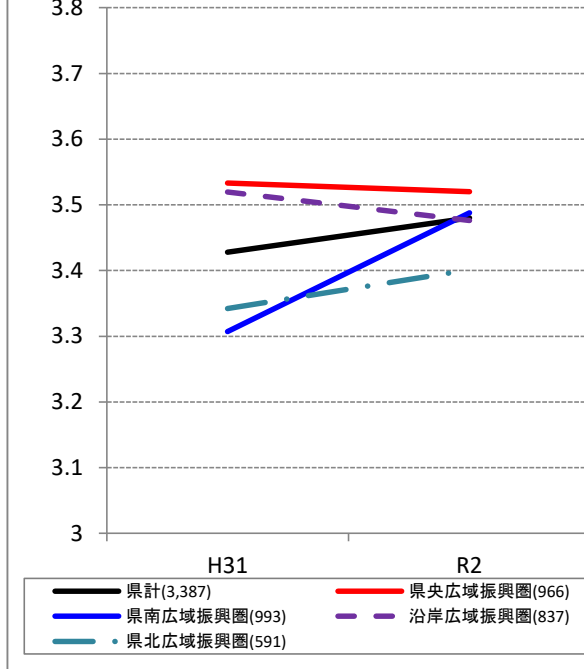
主観的幸福感(県計・世帯構成別)



主観的幸福感(県計・子の人数別)

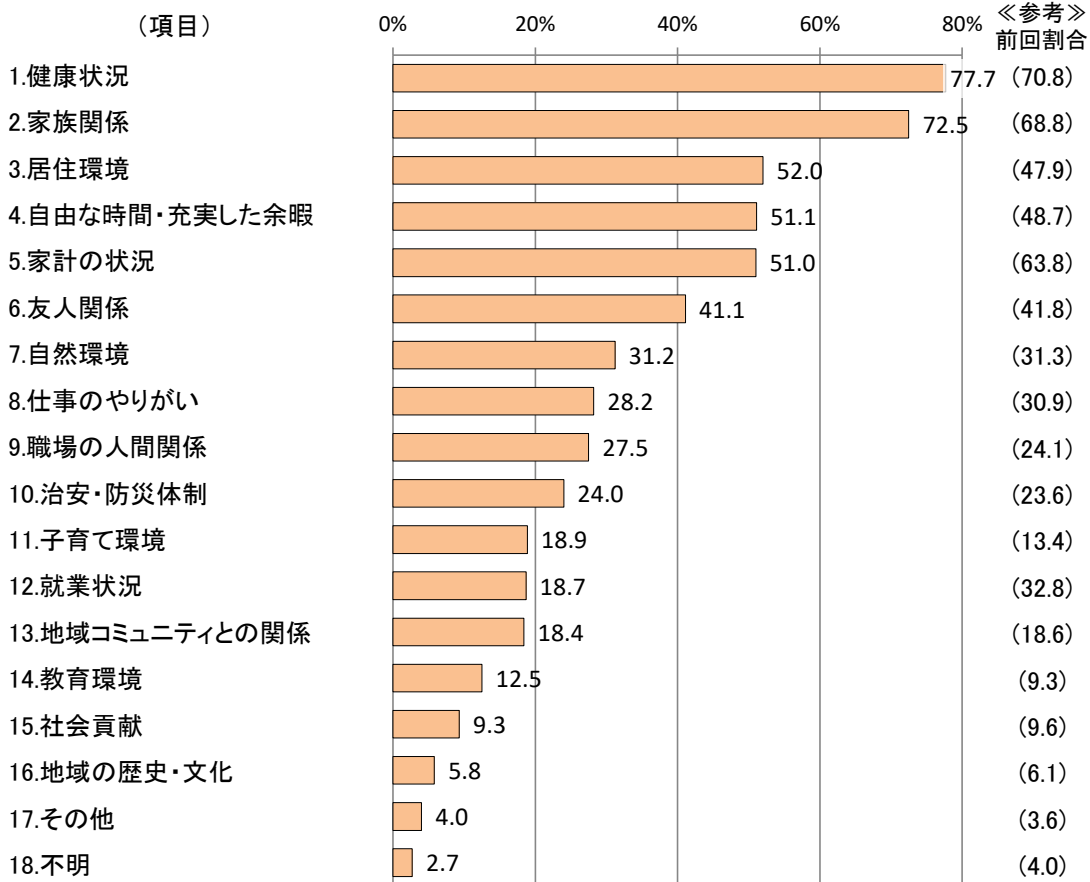


主観的幸福感(県計・広域圏別)



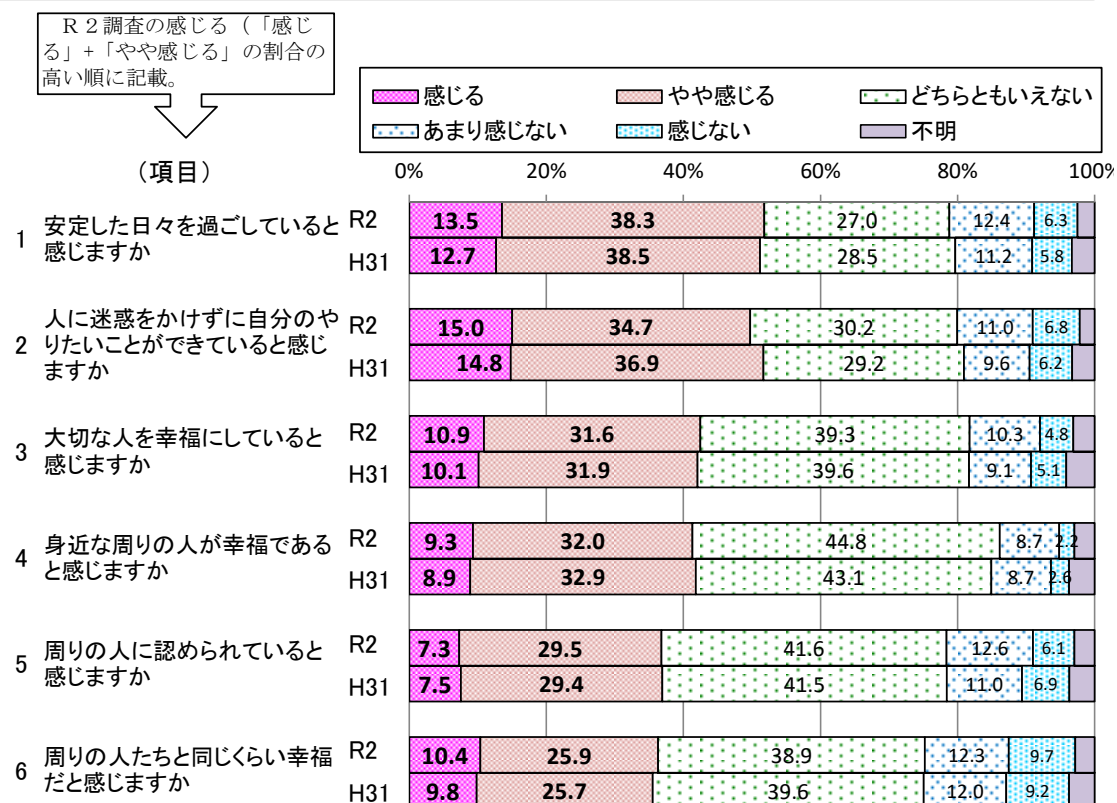
問3-3 あなたが幸福かどうか判断する際に重視した事項は何ですか。

○ 幸福かどうか判断する際に重視すると回答した人の割合が高いのは、「健康状況」の77.7%、「家族関係」の72.5%となっている。



問3-4 身近な周りの人の幸福等について、あなたの実感をおたずねします。

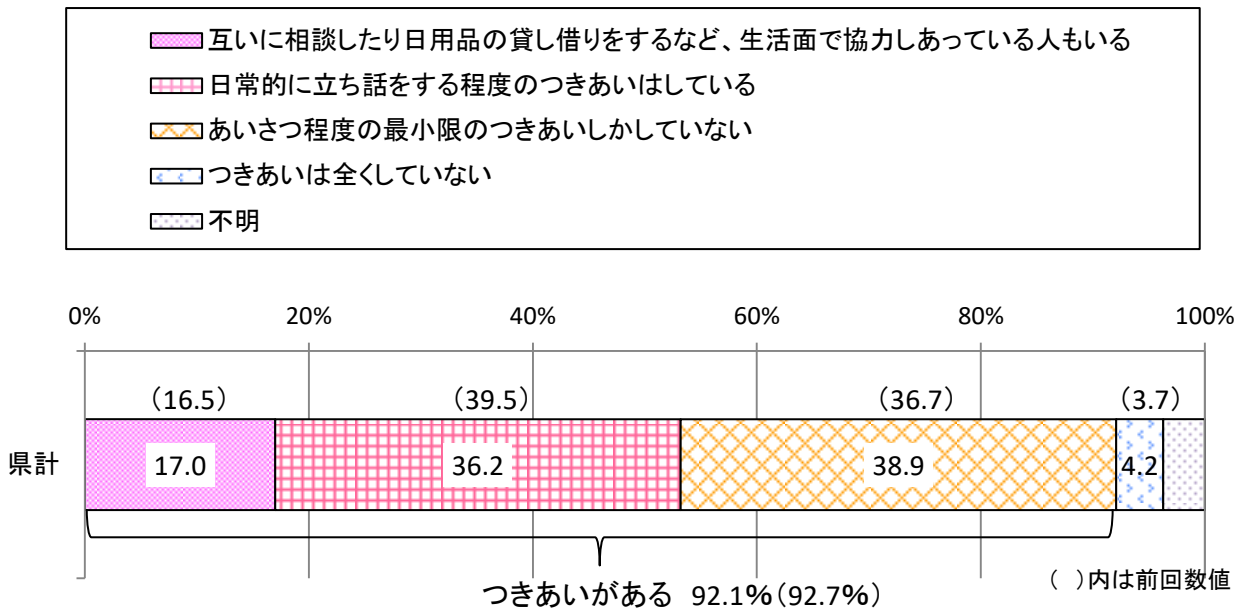
○ 今回及び前回調査の回答割合は下表のとおり。(単純集計結果)



問4 県では、幸福に関連する項目として、「つきあい・交流」、「信頼」、「社会参加」といった「つながり」に注目しており、ここからはあなたの「つながり」に関する行動や考え方等について伺います。

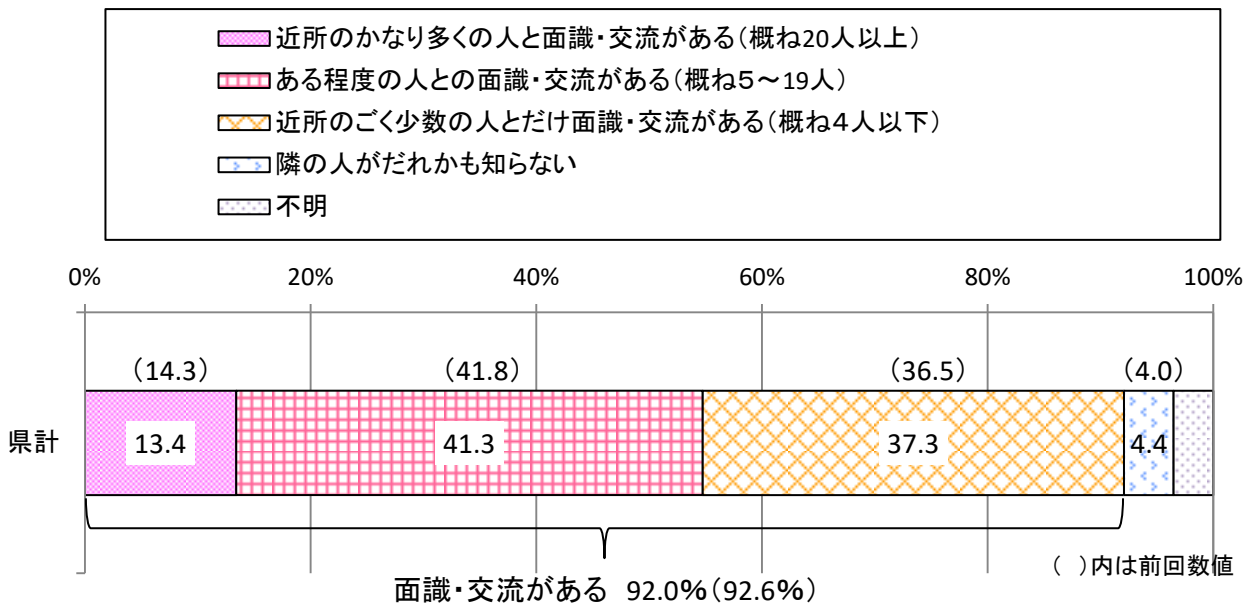
問4-1 あなたは、ご近所の方とどのようなおつきあいをされていますか。

- ご近所つきあいがある（「生活面での協力」、「立ち話程度のつきあい」、「あいさつ程度のつきあい」）と回答した人の割合は、92.1%となっている。
- 一方、「つきあいは全くしていない」は4.2%となっている。



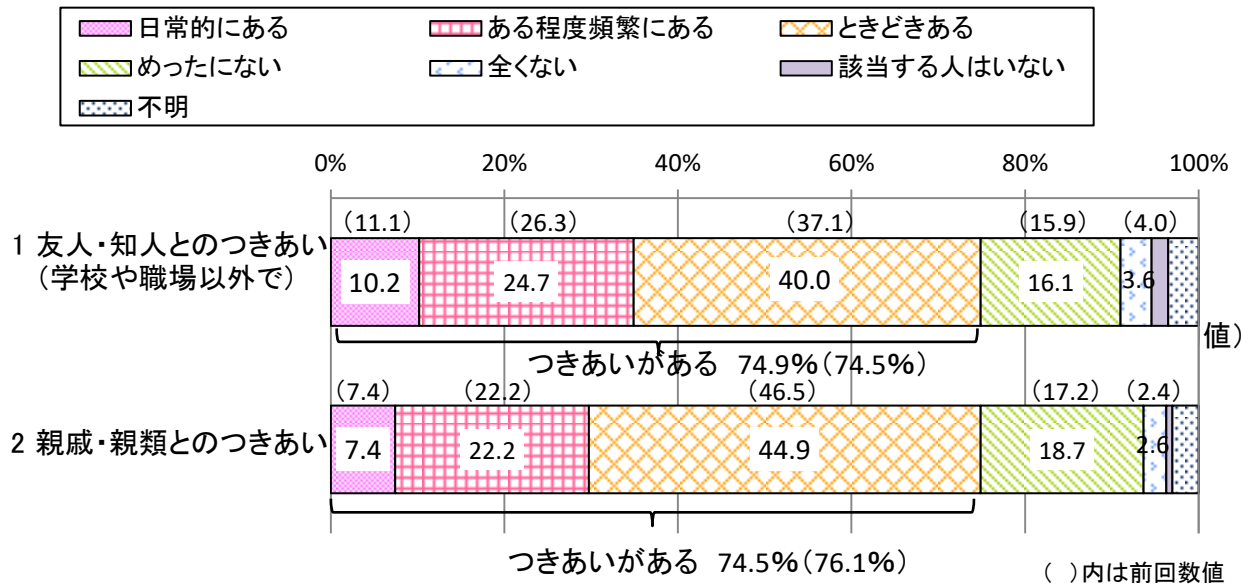
問4-2 つきあっているご近所の方の数は、どのくらいですか。

- 面識・交流がある（「近所のかなり多くの人」、「ある程度の人」、「近所のごく少数の人とだけ」）と回答した人の割合は、92.0%となっている。
- 一方、「隣の人がだれかも知らない」は4.4%となっている。



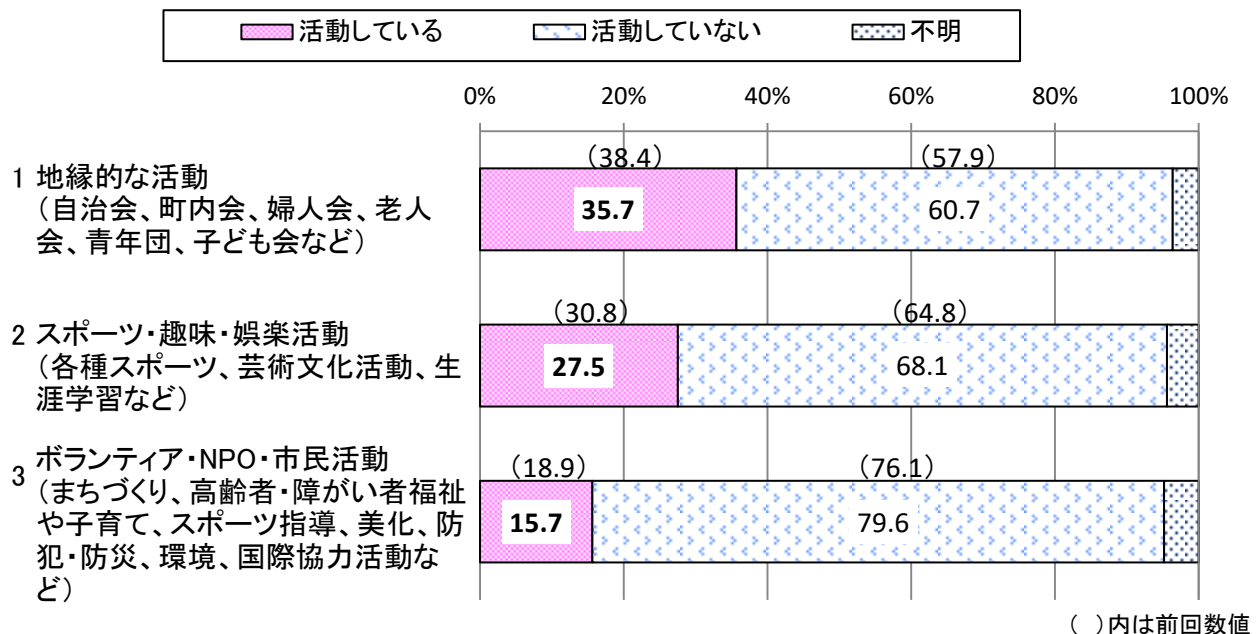
問4-3 あなたは、①友人・知人、②親戚・親類とどのようなおつきあいをされていますか。

- 友人・知人等とのつきあいがある(「日常的にある」、「ある程度頻繁にある」、「ときどきある」と回答した人の割合は、「友人・知人」では74.9%、「親戚・親類」では74.5%となっている。
- 最も割合の高いつきあいの程度は、「友人・知人」では「ときどきある」の40.0%、「親戚・親類」では「ときどきある」の44.9%となっている。



問4-4 あなたは現在、①地縁的な活動、②スポーツ・趣味・娯楽活動、③ボランティア・NPO・市民活動をされていますか。

- 地縁的な活動をしている人は35.7%、スポーツ・趣味・娯楽活動をしている人は27.5%、ボランティア・NPO・市民活動をしている人は15.7%となっている。

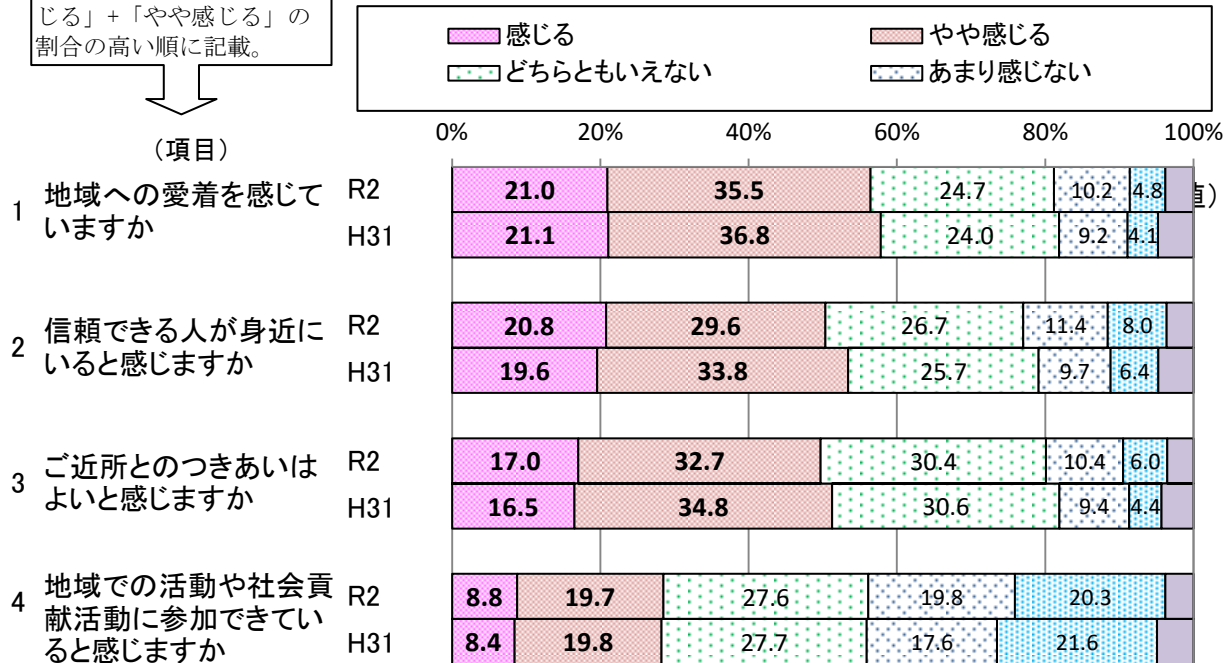


問4-5 あなたのお住まいの地域(小・中学校区から市町村の範囲)に対する
実感をおたずねします。

○ 今回及び前回調査の回答割合は下表のとおり。(単純集計結果)

R2調査の感じる(「感じる」+「やや感じる」の割合の高い順に記載。

(項目)



県民意識調査における幸福を判断する際に重視した事項の順位の経年変化について

	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	平成 31 年	令和 2 年
第 1 位	健康の状況	健康の状況	健康の状況	健康の状況	健康の状況
第 2 位	家族関係	家族関係	家族関係	家族関係	家族関係
第 3 位	家計の状況	家計の状況	家計の状況	家計の状況	居住環境
第 4 位	居住環境	自由な時間 ・充実した 余暇	自由な時間 ・充実した 余暇	自由な時間 ・充実した 余暇	自由な時間 ・充実した 余暇
第 5 位	自由な時間 ・充実した 余暇	居住環境	居住環境	居住環境	家計の状況
第 6 位	友人関係	友人関係	友人関係	友人関係	友人関係
第 7 位	就業状況	就業状況	就業状況	就業状況	自然環境
第 8 位	仕事の やりがい	自然環境	自然環境	自然環境	仕事の やりがい
第 9 位	自然環境	仕事の やりがい	仕事の やりがい	仕事の やりがい	職場の 人間関係
第 10 位	職場の 人間関係	職場の 人間関係	職場の 人間関係	職場の 人間関係	治安・ 防災体制
第 11 位	治安・ 防災体制	治安・ 防災体制	治安・ 防災体制	治安・ 防災体制	子育て環境
第 12 位	地域コミュ ニティとの 関係	地域コミュ ニティとの 関係	地域コミュ ニティとの 関係	地域コミュ ニティとの 関係	就業状況
第 13 位	子育て環境	子育て環境	子育て環境	子育て環境	地域コミュ ニティとの 関係
第 14 位	教育環境	教育環境	教育環境	教育環境	教育環境
第 15 位	社会貢献	社会貢献	社会貢献	社会貢献	社会貢献
第 16 位	地域の歴史 ・文化	地域の歴史 ・文化	地域の歴史 ・文化	地域の歴史 ・文化	地域の歴史 ・文化
第 17 位	その他	その他	その他	その他	その他
第 18 位	不明	不明	不明	不明	不明

〈参考〉

○県民意識調査の設問

問3-2 あなたが幸福かどうか判断する際に重視した事項は何ですか。該当する全ての番号に○をつけてください。

	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	平成 31 年	令和 2 年
1	家計の状況	家計の状況	家計の状況	家計の状況	健康の状況
2	就業状況	就業状況	就業状況	就業状況	自由な時間 ・充実した 余暇
3	健康の状況	健康の状況	健康の状況	健康の状況	家族関係
4	自由な時間 ・充実した 余暇	自由な時間 ・充実した 余暇	自由な時間 ・充実した 余暇	自由な時間 ・充実した 余暇	友人関係
5	仕事の やりがい	仕事の やりがい	仕事の やりがい	仕事の やりがい	職場の 人間関係
6	社会貢献	社会貢献	社会貢献	社会貢献	子育て環境
7	家族関係	家族関係	家族関係	家族関係	教育環境
8	友人関係	友人関係	友人関係	友人関係	居住環境
9	職場の 人間関係	職場の 人間関係	職場の 人間関係	職場の 人間関係	社会貢献
10	地域コミュ ニティとの 関係	地域コミュ ニティとの 関係	地域コミュ ニティとの 関係	地域コミュ ニティとの 関係	地域コミュ ニティとの 関係
11	子育て環境	子育て環境	子育て環境	子育て環境	治安・ 防災体制
12	治安・ 防災体制	治安・ 防災体制	治安・ 防災体制	治安・ 防災体制	仕事の やりがい
13	教育環境	教育環境	教育環境	教育環境	就業状況
14	地域の歴史 ・文化	地域の歴史 ・文化	地域の歴史 ・文化	地域の歴史 ・文化	家計の状況
15	自然環境	自然環境	自然環境	自然環境	地域の歴史 ・文化
16	居住環境	居住環境	居住環境	居住環境	自然環境
17	その他	その他	その他	その他	その他

令和2年県の施策に関する県民意識調査(補足調査)結果

1 調査の目的

県民の幸福に着目して策定した「いわて県民計画（2019～2028）」を着実に推進していくため、「県の施策に関する県民意識調査」で把握した分野別実感の変動要因を把握し、政策評価に反映していくことを目的に、調査対象者を固定し複数年継続して調査を行うパネル調査を実施するもの。

2 調査の概要

- (1) 調査対象 県内に居住する18歳以上の男女
- (2) 調査対象者数 600人（各広域振興圏150人）
- (3) 調査方法 設問票によるアンケート調査（郵送法）
- (4) 調査時期 令和2年1～2月
- (5) 有効回収率 96.8%（581人/600人）
- (6) 回答者の属性

【男女別】	回答者数	割合
男性	295	(50.8)
女性	269	(46.3)
不明	17	(2.9)

【年齢別】	回答者数	割合
18～19歳	10	(1.7)
20～29歳	47	(8.1)
30～39歳	85	(14.6)
40～49歳	99	(17.0)
50～59歳	109	(18.8)
60～69歳	110	(18.9)
70歳以上	104	(17.9)
不明	17	(2.9)

【所得別】	回答者数	割合
100万円未満	117	(20.1)
100万円～300万円未満	282	(48.5)
300万円～500万円未満	93	(16.0)
500万円～700万円未満	37	(6.4)
700万円～1000万円未満	14	(2.4)
1000万円～1500万円未満	4	(0.7)
1500万円以上	2	(0.3)
不明	32	(5.5)

【居住形態別】	回答者数	割合
持家(一戸建て)	449	(77.3)
持家(集合住宅)	10	(1.7)
借家(一戸建て)	31	(5.3)
借家(集合住宅)	64	(11.0)
その他	11	(1.9)
不明	16	(2.8)

【居住地別】	回答者数	割合
県央広域振興圏	147	(25.3)
県南広域振興圏	147	(25.3)
沿岸広域振興圏	144	(24.8)
県北広域振興圏	143	(24.6)

【職業別】	回答者数	割合
自営業主	45	(7.7)
家族従業者	12	(2.1)
会社役員・団体役員	30	(5.2)
常用雇用者	211	(36.3)
臨時雇用者	88	(15.1)
学生	15	(2.6)
専業主婦(主夫)	46	(7.9)
無職	87	(15.0)
その他	25	(4.3)
不明	22	(3.8)

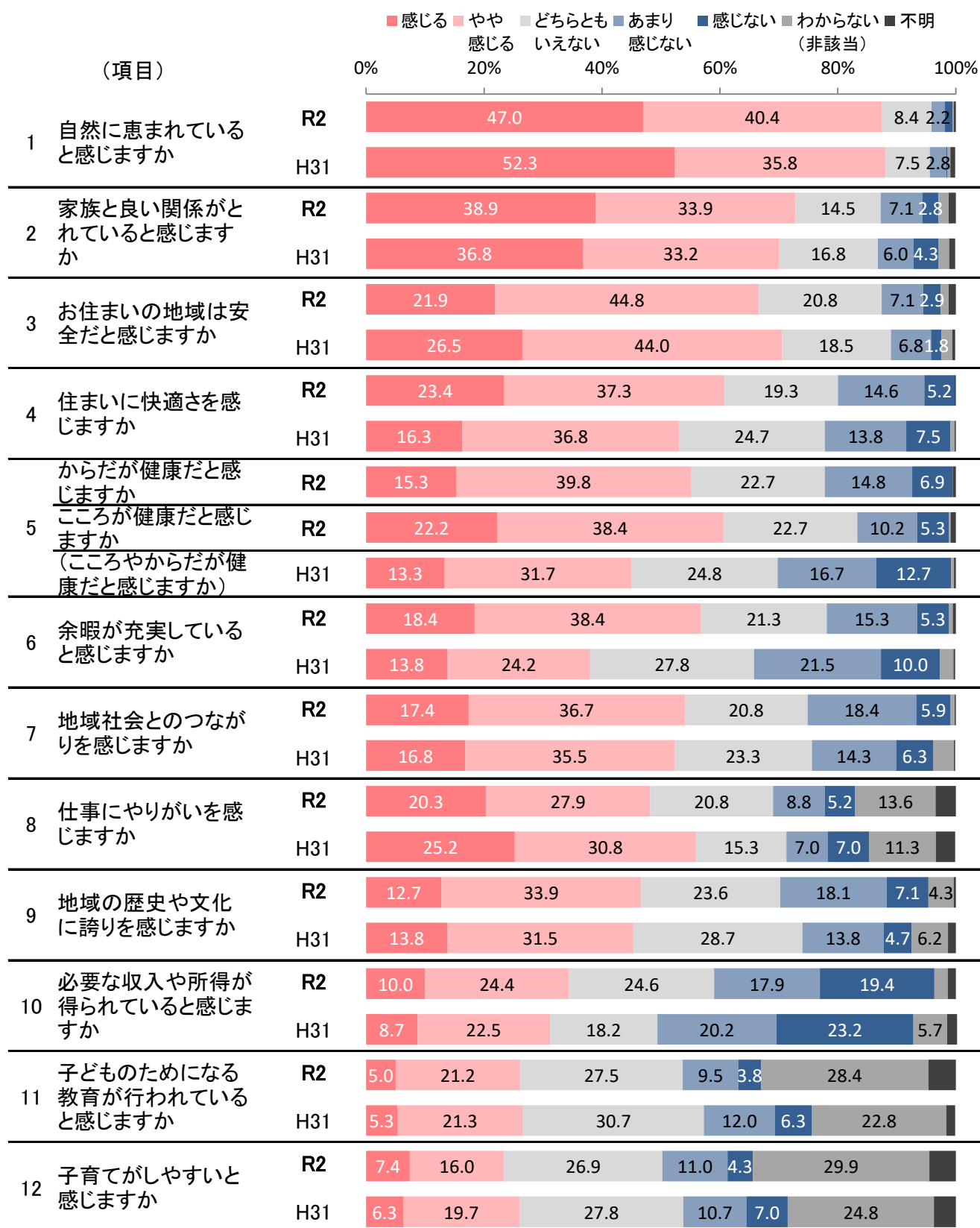
【子どもの数別】	回答者数	割合
1人	74	(12.7)
2人	199	(34.3)
3人	112	(19.3)
4人	17	(2.9)
5人以上	5	(0.9)
子どもはいない	150	(25.8)
不明	24	(4.1)

【世帯構成別】	回答者数	割合
ひとり暮らし	62	(10.7)
同居人あり	483	(83.1)
単身赴任	6	(1.0)
その他	7	(1.2)
不明	23	(4.0)

【居住年数】	回答者数	割合
1年未満	1	(0.2)
1～5年未満	15	(2.6)
5～10年未満	10	(1.7)
10～20年未満	28	(4.8)
20年以上	510	(87.8)
不明	17	(2.9)

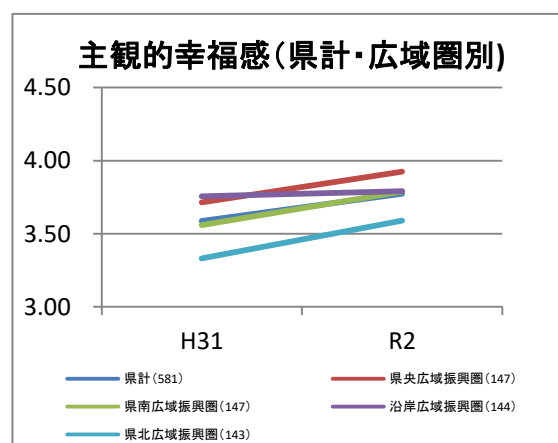
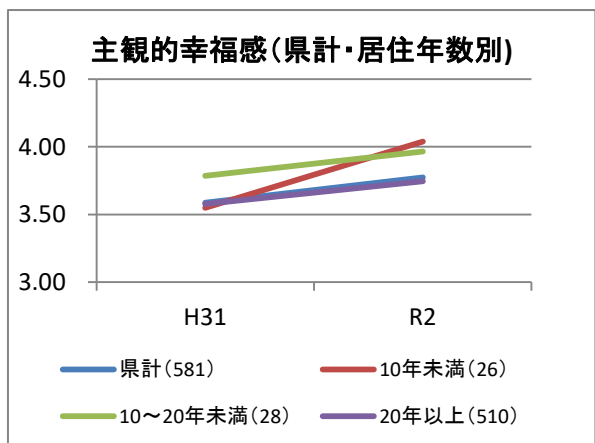
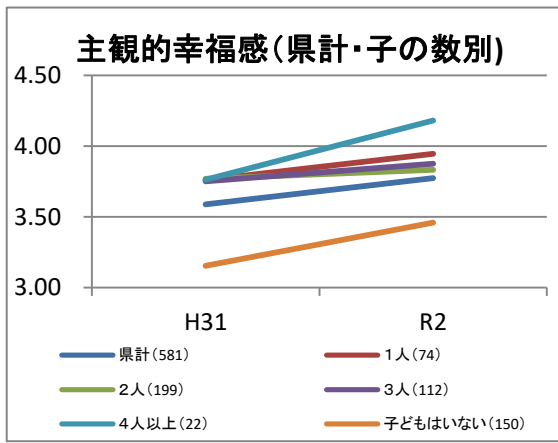
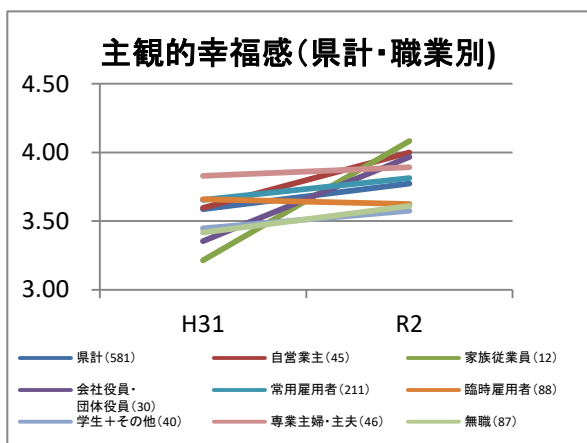
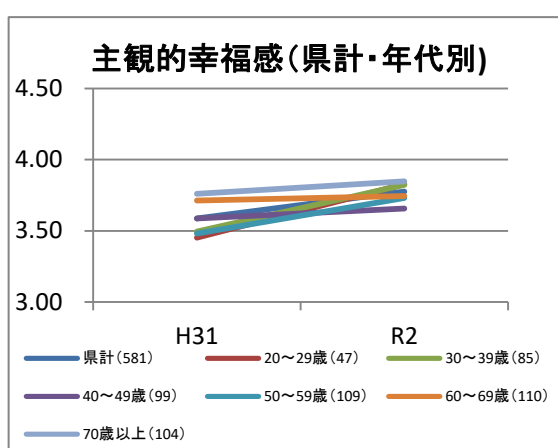
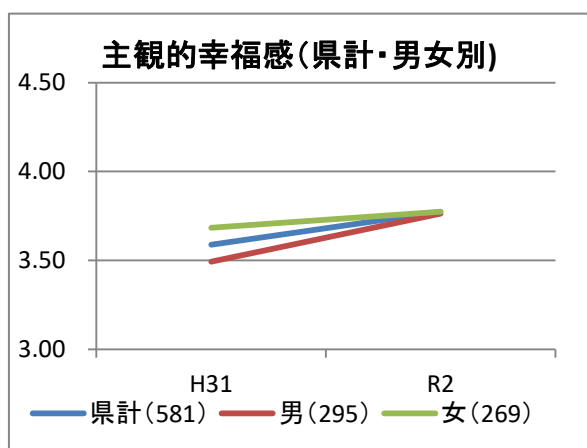
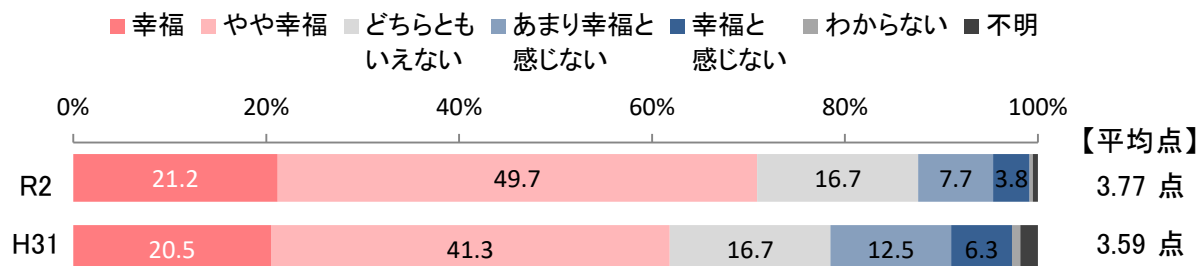
問1-1 現在のあなたご自身のことについて、おたずねします。

○ 「感じる」(「感じる」+「やや感じる」)の割合が高いのは、「自然に恵まれていると感じますか」の87.4%、「家族と良い関係がとれていると感じますか」の72.8%、「お住まいの地域は安全だと感じますか」の66.7%となっている。



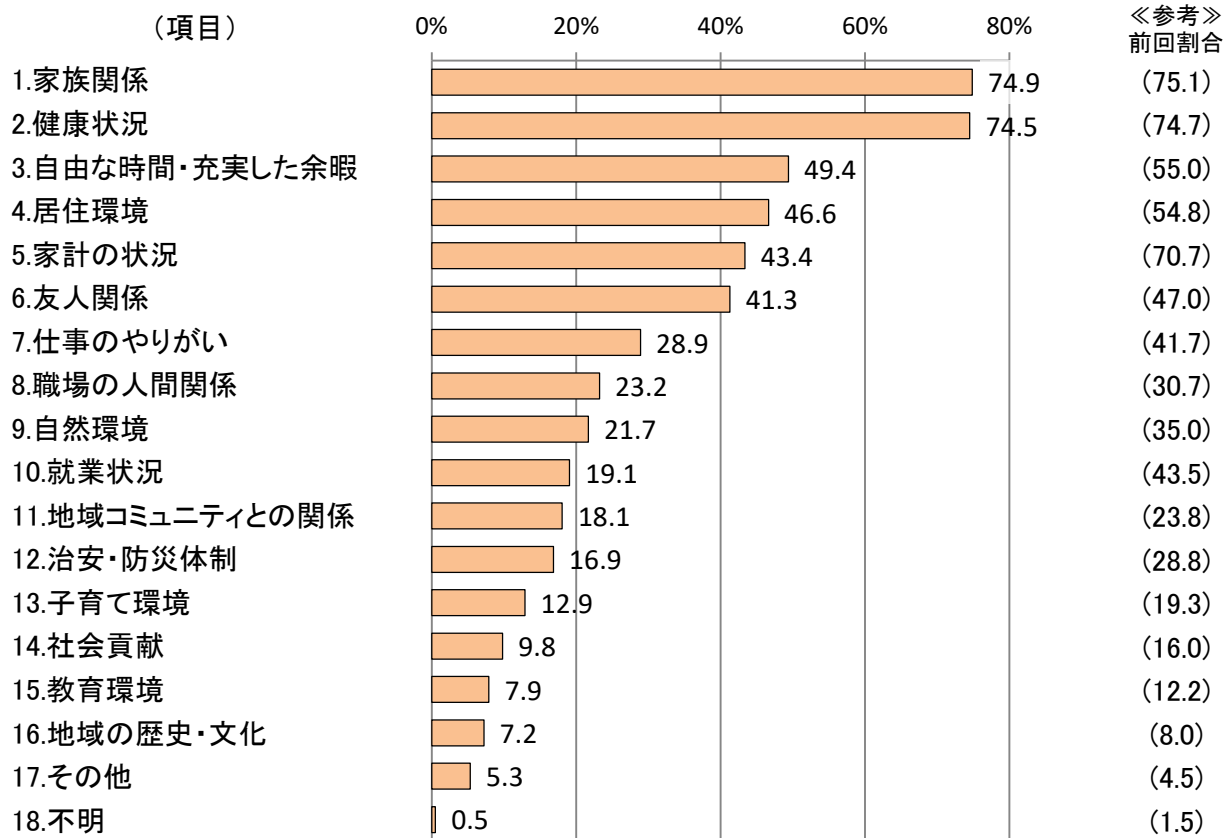
問1-2 あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。

- 補足調査協力者の全体の幸福感は、5点満点中3.77点となり、前回と比較すると0.18点上昇している。
- 「幸福」(「幸福」+「やや幸福」)の割合は70.9%となっており、前回と比較すると9.1ポイント上昇している。



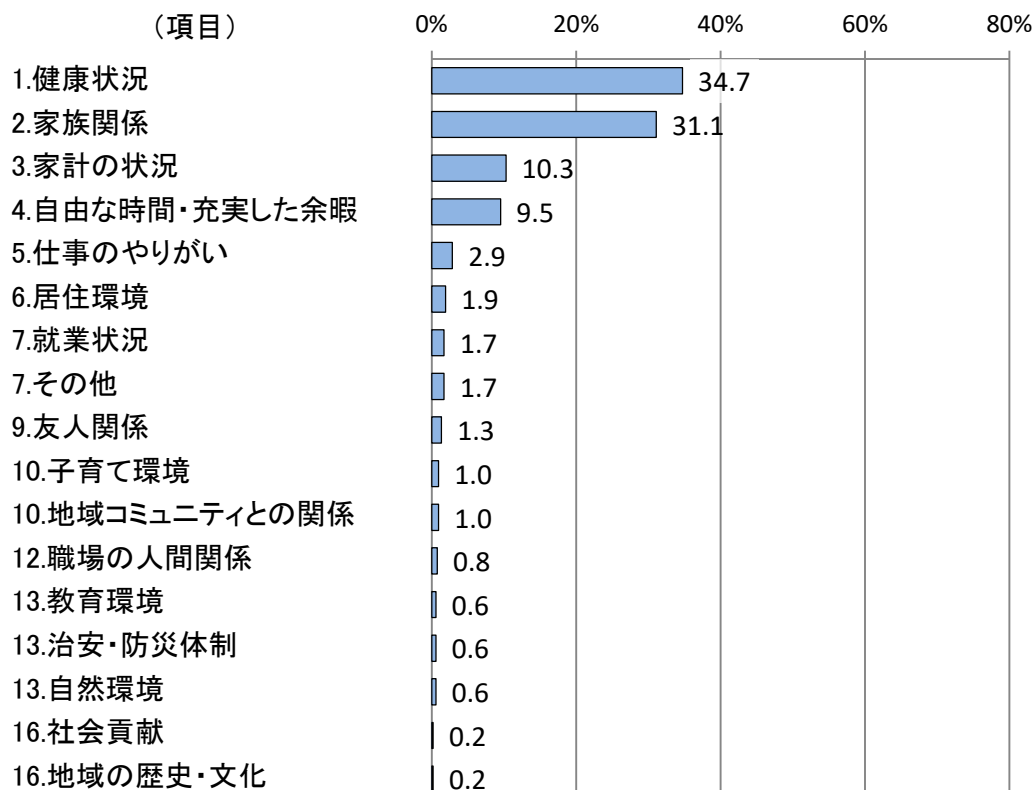
問1-3 ①あなたが幸福かどうか判断する際に重視した事項は何ですか。

○ 幸福かどうか判断する際に重視すると回答した人の割合が高いのは、「家族関係」の74.9%、「健康状況」の74.5%となっている。



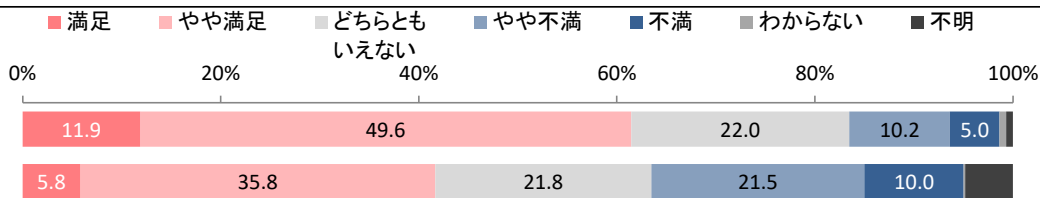
問1-3 ②最も重視する事項は何ですか。

○ 最も重視すると回答した人が多いのは、「健康状況」の34.7%、「家族関係」の31.1%となっている。



問2 あなたは、今の生活全般について、どのように感じていますか。

○ 「満足」(「満足」+「やや満足」)の割合は61.5%となっており、前回と比較すると19.9ポイント上昇している。



問3 あなたの現在の暮らしからみて、調査項目の状態についてどれくらい満足していますか。

【重要度】

- 重要度の高い項目は、「交通事故の少ない社会づくり」、「犯罪への不安の少ない社会づくり」、「適切な医療体制」となっている。
- 一方、「日常的に文化芸術に親しむ機会」、「ILCや新たな産業振興への取組」、「特色ある私学教育の充実」などの項目が重要度が低くなっている。

重要度が高い項目

順位	(参考)意識調査	10の政策分野	番号	項目
1	1	⑤	31	交通事故の少ない社会づくり
2	2	⑤	30	犯罪への不安の少ない社会づくり
3	3	①	3	適切な医療体制
4	4	⑨	53	災害に強く安心して暮らせる県土
5	9	③	14	人間性豊かな子どもの育成

※ 項目は設問文を要約して記載。

重要度が低い項目

順位	(参考)意識調査	10の政策分野	番号	項目
57	57	①	5	日常的に文化芸術に親しむ機会
56	56	⑨	51	ILCや新たな産業振興への取組
55	53	③	19	特色ある私学教育の充実
54	55	①	6	身近な地域でスポーツを楽しむ機会
53	54	④	27	外国人も暮らしやすい社会

【満足度】

- 満足度の高い項目は、「県ゆかりの芸術家やスポーツ選手の活躍」、「購入する食品の安全性に不安を感じない社会」、「犯罪への不安の少ない社会づくり」となっている。
- 一方、「商店街のにぎわい」、「農林水産業の担い手確保」、「中小企業の成長・発展」などの項目が満足度が低くなっている。

満足度が高い項目

順位	(参考)意識調査	10の政策分野	番号	項目
1	1	③	21	県ゆかりの芸術家やスポーツ選手の活躍
2	3	⑤	33	購入する食品の安全性に不安を感じない社会
3	11	⑤	30	犯罪への不安の少ない社会づくり
4	2	⑧	49	ごみ減量やリサイクルの定着
5	7	⑧	48	自然環境を大切に生活

満足度が低い項目

順位	(参考)意識調査	10の政策分野	番号	項目
57	57	⑥	36	商店街のにぎわい
56	56	⑥	42	農林水産業の担い手確保
55	53	⑥	37	中小企業の成長・発展
54	55	⑥	35	安定した就職環境
53	54	④	24	公共交通機関の維持・確保

【ニーズ度】

- ニーズ度の高い項目は、「安定した就職環境」、「農林水産業の担い手確保」、「公共交通機関の維持・確保」となっている。
- 一方、「日常的に文化芸術に親しむ機会」、「県ゆかりの芸術家やスポーツ選手の活躍」、「身体の健康に関する相談・指導」などの項目がニーズ度が低くなっている。

ニーズ度が高い項目

順位	(参考)意識調査	10の政策分野	番号	項目
1	1	⑥	35	安定した就職環境
2	2	⑥	42	農林水産業の担い手確保
3	4	④	24	公共交通機関の維持・確保
4	3	⑥	36	商店街のにぎわい
5	5	③	17	いじめや不登校への適切な対処

ニーズ度が低い項目

順位	(参考)意識調査	10の政策分野	番号	項目
57	57	①	5	日常的に文化芸術に親しむ機会
56	55	③	21	県ゆかりの芸術家やスポーツ選手の活躍
55	54	①	1	身体の健康に関する相談・指導
54	56	①	6	身近な地域でスポーツを楽しむ機会
53	51	③	19	特色ある私学教育の充実

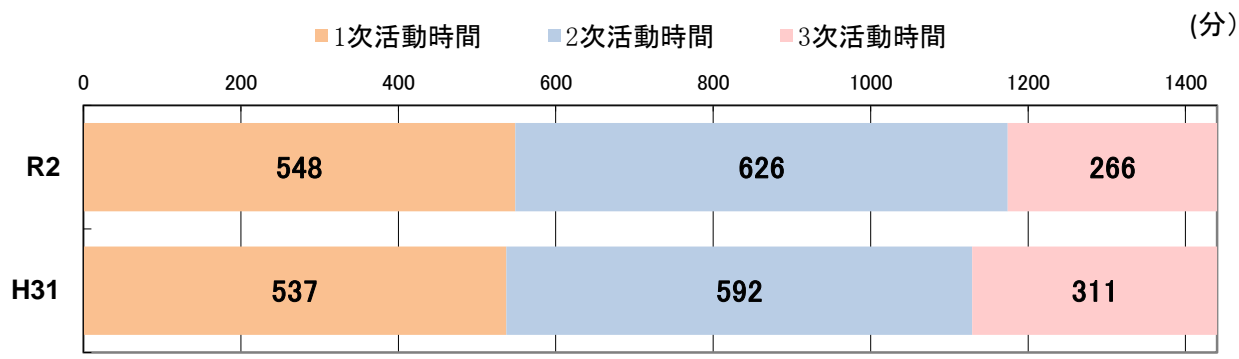
10の政策分野

- ①:「健康・余暇」分野
- ②:「家族・子育て」分野
- ③:「教育」分野
- ④:「居住環境・コミュニティ」分野
- ⑤:「安全」分野
- ⑥:「仕事・収入」分野
- ⑦:「歴史・文化」分野
- ⑧:「自然環境」分野
- ⑨:「社会基盤」分野
- ⑩:「参画」分野

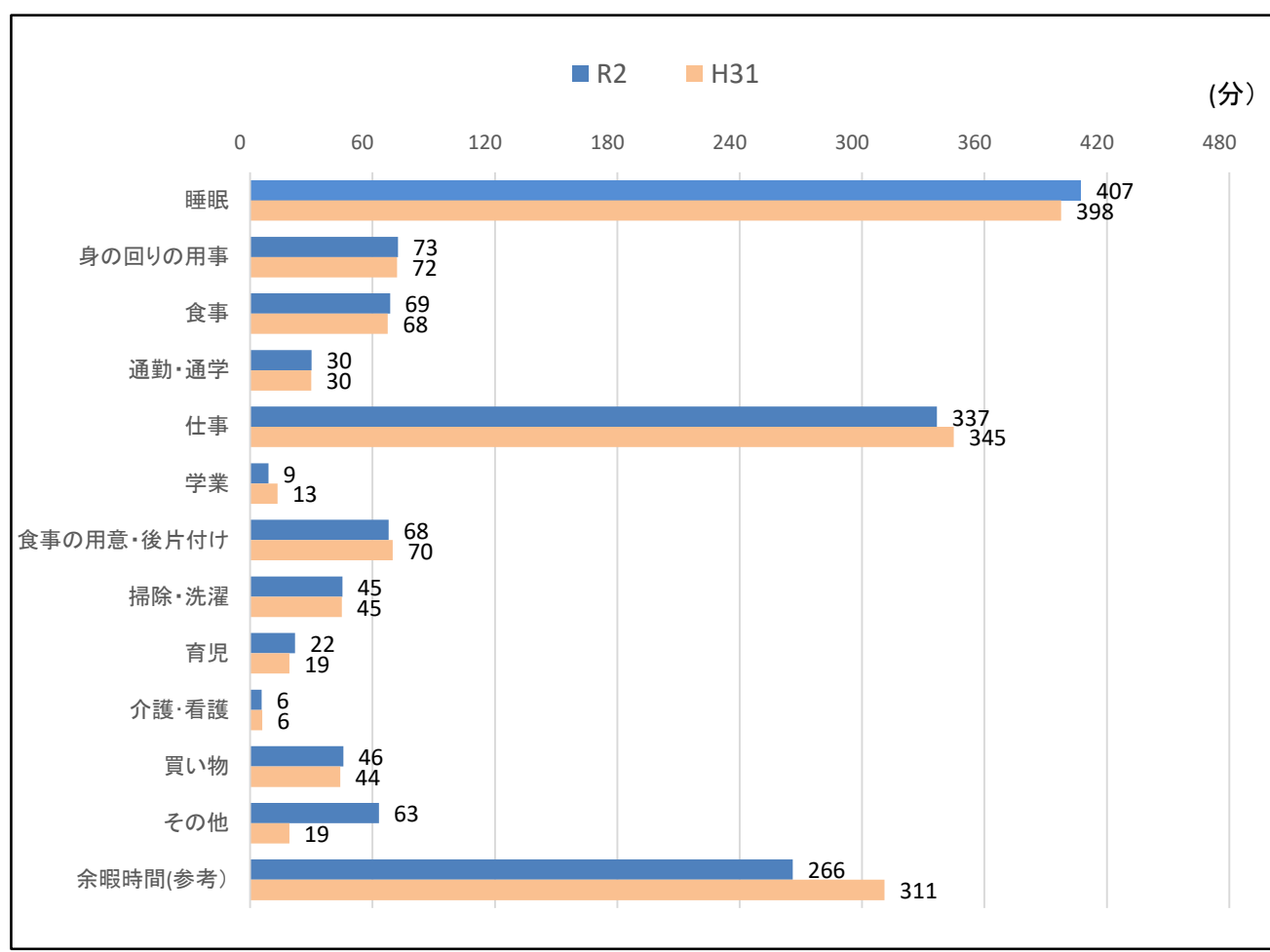
問4 あなたは、普段の生活で、以下の行動をどのくらいの時間行っていますか。

○ 1日当たりの行動の内容は、1次活動時間が548分(9時間8分)、2次活動時間が626分(10時間26分)、3次活動時間が266分(2時間26分)となっている。

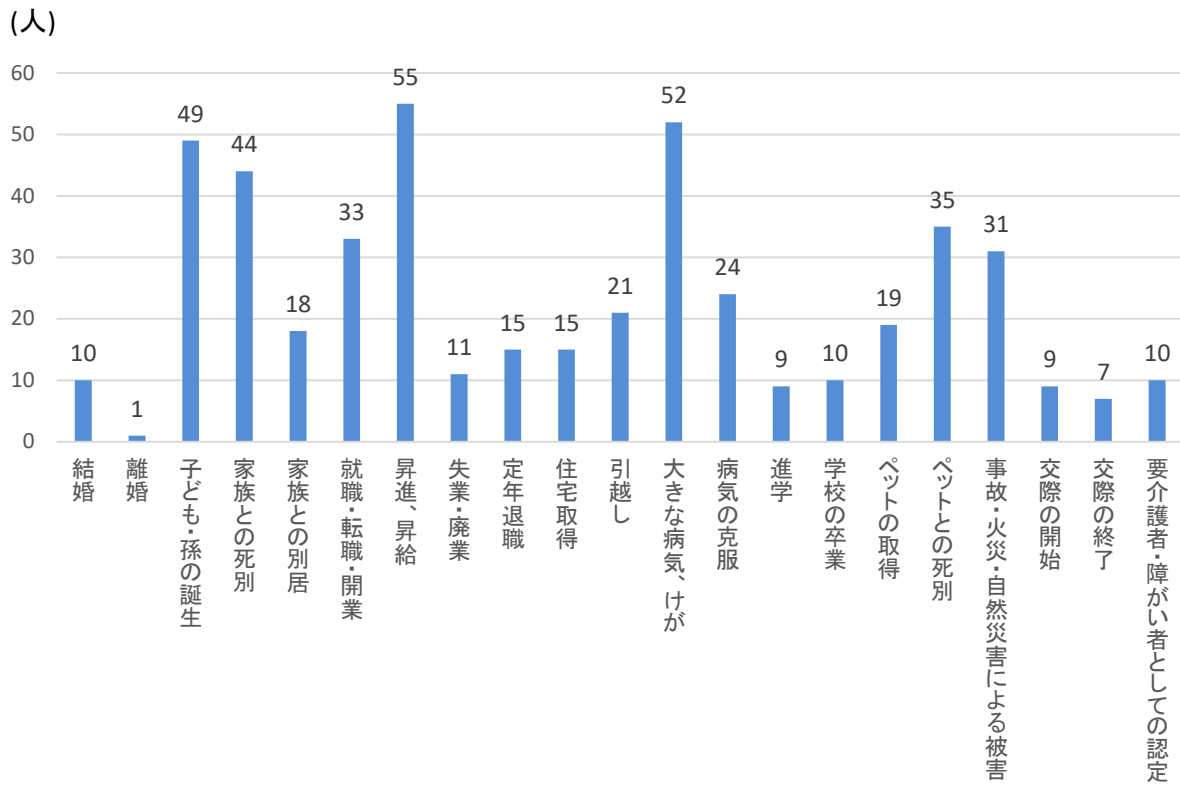
1次活動:睡眠、食事など生理的に必要な活動
 2次活動:仕事、家事など社会生活を営む上で義務的な性格の強い活動
 3次活動:1次活動、2次活動以外で各人が自由に使える時間における活動



【行動種類別】



問5 あなたが、この1年間で経験したことについて、あてはまるものを選んでください。



「補足調査」分野別実感の時系列分析結果

政策分野	分野別実感	平均値の推移	
		H31 (基準年)	R 2 (当該年度)
I 健康・余暇	(1) 心身の健康	3.16	-
			-
	(1) -1 からだの健康	-	3.42
			-
(1) -2 こころの健康	-	3.63	
		-	
(2) 余暇の充実	3.11	3.50	
		↑ (0.39)	
II 家族・子育て	(3) 家族関係	3.95	4.02
			↑ (0.07)
(4) 子育て	3.11	3.17	
		↑ (0.06)	
III 教育	(5) 子どもの教育	3.10	3.21
			- (0.11)
IV 居住環境・ コミュニティ	(6) 住まいの快適さ	3.41	3.59
			↑ (0.18)
(7) 地域社会とのつながり	3.44	3.42	
		- (△0.02)	
V 安全	(8) 地域の安全	3.89	3.78
			↓ (△0.11)
VI 仕事・収入	(9) 仕事のやりがい	3.71	3.60
			- (△0.11)
(10) 必要な収入や所得	2.71	2.87	
		↑ (0.16)	
VII 歴史・文化	(11) 歴史・文化への誇り	3.39	3.29
			- (△0.10)
VIII 自然環境	(12) 自然のゆたかさ	4.39	4.30
			↓ (△0.09)

(注) ① () は前年との差。

② t 検定の結果、5%水準で有意な変化が確認できたものは、網掛けと矢印で表記。

補足調査の対象者の選定の妥当性について

1 補足調査の目的

補足調査については、同じ対象者に継続的に調査を行うことで、県民意識調査で得られた実感の変動について、どのような理由で実感が変動したかを推測するために実施するもの

2 対象者の選定方法

- ・現計画である「いわて県民計画 2019～2028」が始まる直前の県民意識調査である平成31年の調査にご協力いただいた県民が対象
- ・そのうち、継続的な調査に対して、協力していただけの方を選定
- ・選定に当たっては、以下の基準に基づき、選定
 - ① 各圏域 150 名
 - ② 男女比を可能な限り同数
 - ③ 年齢ごとに統計に必要な 100 名となるように選定
 (協力可能等回答いただいた方で、年齢層で十分な数を確保できなかったところについては、可能な範囲で対象に追加)

3 調査の妥当性について

今回の調査対象に人口（令和元年岩手県人口移動報告年報）に対する割合については、下表のとおりである。

調査目的の趣旨から、統計的に有意な調査対象人数を確保したため、調査割合が 30 代から 60 代にかけて若干高くなり、70 歳以上が若干低くなっているものの、人口割合に近い調査結果となっている。

年代	本県の人口		調査対象者	
	人口(人)	割合(%)	調査対象者	調査割合(%)
18～19歳	22,196	2.1	10	1.7
20代	93,221	8.9	47	8.1
30代	122,212	11.7	85	14.6
40代	160,467	15.3	99	17.0
50代	158,943	15.2	109	18.8
60代	188,712	18.0	110	18.9
70歳以上	303,249	28.9	104	17.9
不明	-	-	17	2.9
総人口(18歳以上)	1,049,000			

県民意識調査と補足調査の主観的幸福感の信頼区間

1 趣旨

「県民意識調査の調査結果」と「補足調査の調査結果」が同じ母集団から得られた結果と考えられるか否かを検証するため、両調査の主たる調査項目である主観的幸福感の平均値の信頼区間を比較するもの。

2 比較方法

(1) 調査年

平成 31 年及び令和 2 年調査

(2) 調査の概要

- ・ 県民意識調査 層化二段無作為抽出した 18 歳以上の県民 5,000 人を対象
- ・ 補足調査 性別、年齢階層、居住地ごとに均等配分した県民 600 人を対象

(3) 信頼区間の推定方法

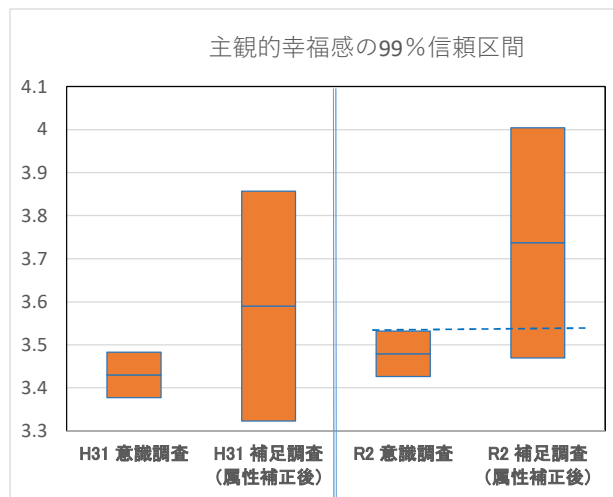
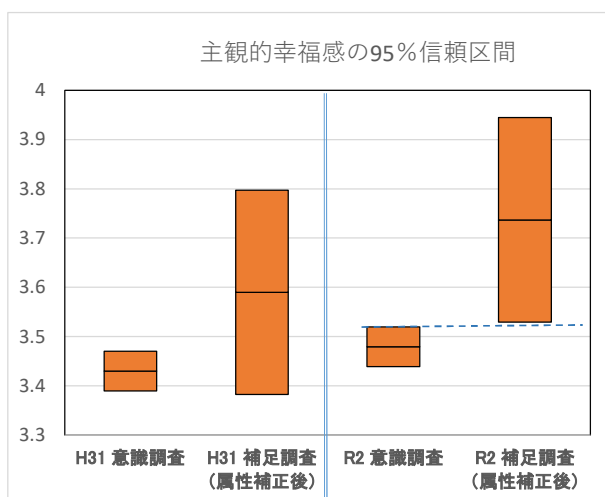
- ・ 県民意識調査 調査データから推定
- ・ 補足調査 性別、年齢階層、居住地の回答者割合を県民意識調査の回答者割合に一致（属性補正）させた上で、分散が最大と仮定して推定

(参考) 属性補正による平均値の変化 性別-0.03、年齢階層-0.01、居住地 0.02

3 信頼区間の推定結果

95%信頼区間の推定結果から、平成 31 年調査では、県民意識調査結果と補足調査結果の有意な差は確認できなかった。

令和 2 年調査では、95%信頼区間の比較では両調査結果に有意な差が確認できたものの、99%信頼区間の比較では有意な差は確認できなかった。



県民意識調査と補足調査結果について

○主観的幸福感

	H31	R2
県民意識調査	3.43	3.48
補足調査	3.59	3.77

○分野別実感の高い順位

	県民意識調査	補足調査
1位	自然のゆたかさ	自然のゆたかさ
2位	家族関係	家族関係
3位	地域の安全	地域の安全
4位	住まいの快適さ	住まいの快適さ
5位	心身の健康	心身の健康
6位	地域社会とのつながり	余暇の充実
7位	仕事のやりがい	地域社会とのつながり
8位	歴史・文化への誇り	仕事のやりがい
9位	余暇の充実	歴史・文化への誇り
10位	子育て	必要な収入や所得
11位	子どもの教育	子どもの教育
12位	必要な収入や所得	子育て

○幸福かどうか判断する際に重視した事項の順位

	県民意識調査	補足調査
1位	健康状況	家族関係
2位	家族関係	健康状況
3位	居住環境	自由な時間・充実した余暇
4位	自由な時間・充実した余暇	居住環境
5位	家計の状況	家計の状況
6位	友人関係	友人関係
7位	自然環境	仕事のやりがい
8位	仕事のやりがい	職場の人間関係
9位	職場の人間関係	自然環境
10位	治安・防災体制	就業状況
11位	子育て環境	地域コミュニティとの関係
12位	就業状況	治安・防災体制
13位	地域コミュニティとの関係	子育て環境
14位	教育環境	社会貢献
15位	社会貢献	教育環境
16位	地域の歴史・文化	地域の歴史・文化
17位	その他	その他
18位	不明	不明